

健康について深く考える生徒を育てる保健の学習指導
— イメージマップを活用した学習過程を通して —

長期派遣研修員 福岡県立北筑高等学校 教諭 大和 忠輔

I 主題設定の理由

1 社会の情勢・教育の動向から

現在、生徒が抱える健康課題には、薬物乱用の問題、性に関する問題、生活習慣の乱れ、メンタルヘルスの問題などがある。さらに、高校生以降におけるライフステージにおいても、動脈硬化、糖尿病、高血圧症などの疾患、疾病や労働環境に起因する職業病などの発生が考えられる。このように多様化・複雑化する健康課題に、現在だけでなく将来においても適切に対処し、疾患や疾病などから回復を図ったり、自らの健康の改善に向けて取り組んだりすることができる力が求められる。また、新型コロナウイルス感染症の感染が世界中で拡大したように、今後、治療や対策方法などが見え難い健康課題にも、ヘルスリテラシーを高めて対応することが必要となる。

高等学校学習指導要領(平成30年告示)解説保健体育編(以下「解説」という)の教科の目標には、「体育や保健の見方・考え方を働かせ、課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けた学習過程を通して、心と体を一体として捉え、生涯にわたって心身の健康を保持増進し豊かなスポーツライフを継続するための資質・能力を次のとおり育成することを目指す」として、「知識及び技能」、「思考力、判断力、表現力等」、「学びに向かう力、人間性等」の3つの資質・能力が示された。また、目標の「生涯にわたって心身の健康を保持増進し」とは、保健を通して培う包括的な目標として「健康・安全について科学的に理解することを通して、心身の健康の保持増進に関する内容を単に記憶としてとどめることなく、生徒が現在及び将来の生活において健康に関する課題に対して、科学的な思考と正しい判断の下に適切な意思決定・行動選択を行い、適切に実践していくための思考力、判断力、表現力等が含まれている」と示された。このことから、多様化・複雑化する健康課題に対する解決方法を考え、適切に判断し、行動することが求められているものと考えられる。

森(2019)は、今回の学習指導要領の改訂の最も重要なポイントは「健康課題を解決する力」の育成とし、「小学校で五つ、中学校で四つ、高等学校で四つと、すべての内容のまとまりに健康課題を解決するための『思考力、判断力、表現力等』が示されたことは、とても重要なことなのである」と述べている。また、「ますます世の中が変化し、結論がなかなか出せない課題と向き合う時代に入っていく中で、自他の健康のために粘り強く考え、適切に判断することが求められている」と述べており、健康課題を解決するための「思考力、判断力、表現力等」の資質・能力を高めていく重要性を示していると考えられる。

そこで、本研究では、保健の学習を通して、保健の見方・考え方を働かせ、健康について深く考える生徒を育成する授業の在り方を究明していく。このことは、生徒が生涯にわたって健康の保持増進及び回復に向けて取り組む上でも意義深いと考える。

2 これまでの指導の反省から

これまでの保健の学習指導では、学習プリントを工夫したり、身近な事例で説明したり、動画を活用したりして授業を展開してきた。学校で実施した授業アンケートの結果を見ると、保健の授業に対して興味・関心を持ったり、知識を習得したりすることには一定の成果があったと考える。しかし、休養や睡眠に関する内容を学習した後に、睡眠不足による体調不良を起こすなど、学んだことを実践するまでには至っておらず、実生活の場面に置き換えて考えさせるための指導方法の工夫が、十分に行えていなかったと考える。

田村(2014)は、イノベーションの時代において社会が大きく変化し、求められる人材が大きく変わってきていることから、「一つ一つの事実に知識を暗記し、再生するよりも、そうした知識を実際の生活の場面や問題解決の場面において活用できる汎用的能力こそが求められるようになった」と述べている。そこで、本研究では、知識を知識として留めておくのではなく、知識を活用して課題を見出し、その原因や解決方法などを考えたり、健康課題を解決する新たな知識や考え方を取り入れたり、考えたことをもとに実生活に生かしたりすることができるような思考力を育成していく必要があると考え、主題を設定した。

II 主題・副主題について

1 主題の意味

(1) 「深く考える」について

「深く考える」とは、「つくる思考」、「広げる思考」、「結び付ける思考」の3つの思考を段階的に働かせることである。

田村(2014)は、新しい社会に求められる力として「思考力」の重要性を述べている。そのような新しい社会に求められる力の1つとして、21世紀型能力がある。

21世紀型能力は、思考力を中核とし、それを支える基礎力と使い方を方向付ける実践力の三層構造で構造化されており、文部科学省の提唱する生きる力を育むための具体的な方向性として国立教育政策研究所が2013年に示したものである【図1】。

社会の変化に対応する資質や能力を育成する教育課程編成の基本原則「教育課程の基礎的研究報告書5」(2013)には、「21世紀型能力の中核に、『一人ひとりが自ら学び判断し自分の考えをもって、他者と話し合い、考えを比較吟味して統合し、よりよい答えや新しい知識を創り出し、さらに次の問いを見つける力』としての『思考力』を位置づける」と示されている。このことから、21世紀型能力の思考力は、まず「自分の考えをもつ」、次に「新たな考えに気付く」、最後に「自分の考えを生かす」という段階があると捉え、本研究では、自分の考えをもつ「つくる思考」、新たな考えに気付く「広げる思考」、自分の考えを生かす「結び付ける思考」という3つの思考を段階的に働かせていることを「深く考える」とした。以下に3つの思考の具体を示す。

ア 「つくる思考」について

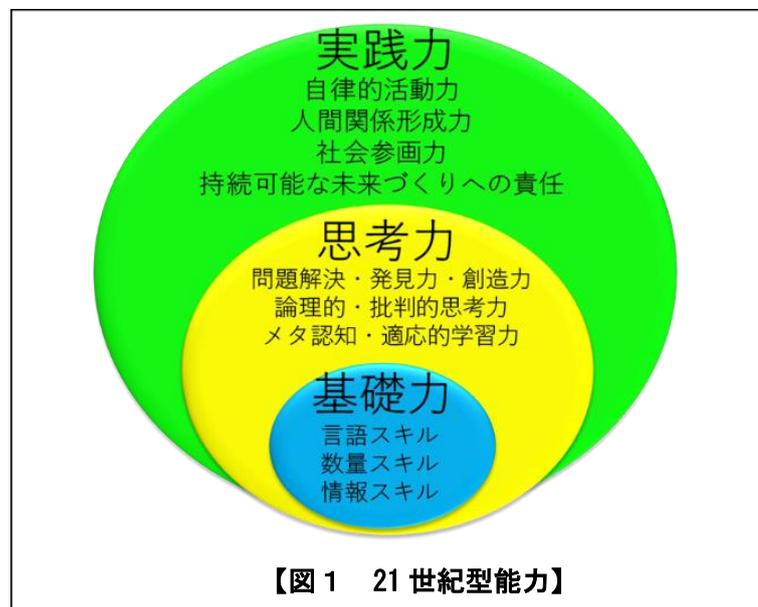
「つくる思考」とは、既存の知識を活用して、自分なりの考えをもつことである。

イ 「広げる思考」について

「広げる思考」とは、「つくる思考」の考えに、他者の考えや資料などをもとに、比較したり評価したりして、新たな知識や考えを付加することである。

ウ 「結び付ける思考」について

「結び付ける思考」とは、「広げる思考」で付加した考えをもとに、実生活に生かす方法を考えることである。



(2) 「健康について深く考える生徒」について

「健康について深く考える生徒」とは、健康の保持増進に向けて「つくる思考」、「広げる思考」、「結び付ける思考」の3つの思考を段階的に働かせている生徒のことである。

健康の保持増進に向けて「つくる思考」、「広げる思考」、「結び付ける思考」の3つの思考を段階的に働かせているとは、健康の保持増進に向け、まず、すでに持っている知識を使って健康課題を見出し、その原因や解決方法などについて自分なりの考えをもつ「つくる思考」を働かせる。次に、自分なりの考えを他者の知識や考え、資料などをもとに比較したり評価したりして、新たな知識や考えを付加する「広げる思考」を働かせる。最後に、付加された考えをもとに、個人的な視点と社会的な視点を踏まえ、実生活で生かす方法を考える「結び付ける思考」を働かせることと捉えている。

【表1】は、本研究が目指す「健康について深く考える生徒」の姿である。

【表1 健康について深く考える生徒の姿】

『つくる思考』	既存の知識を使って健康課題を見出し、それに対して原因や解決方法などについて自分なりの考えをもつことができる生徒。
『広げる思考』	自分なりの考えを他者の考えや資料などと比較したり評価したりして、新たな知識や考えを付加することができる生徒。
『結び付ける思考』	個人的な視点と社会的な視点を踏まえ、実生活で生かす方法を考えることができる生徒。

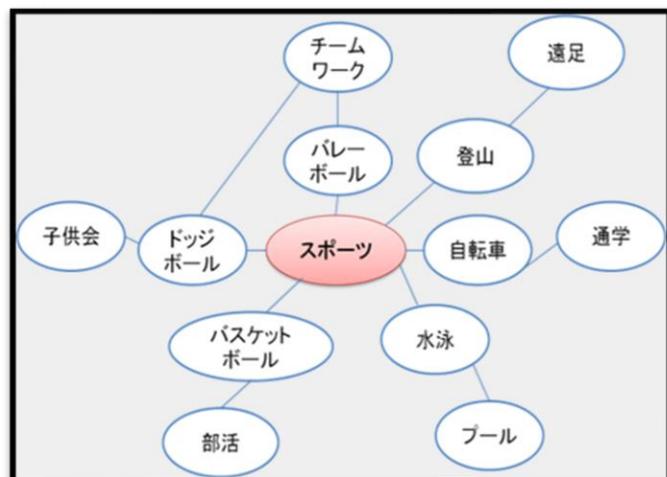
2 副主題の意味

(1) 「イメージマップ」について

「イメージマップ」とは、知識や考えを書き出して可視化し、もっている知識や考えたことを確かめたり、付加したり、関連付けたりすることのできる思考ツールのことである。

「思考ツール」とは、頭の中にある情報を具体的なキーワードにして書き込むためのシンプルな図形の枠組みで、自分の頭の中にある知識や考えを可視化することで、他者にも自分自身にも分かりやすくするためのものである。

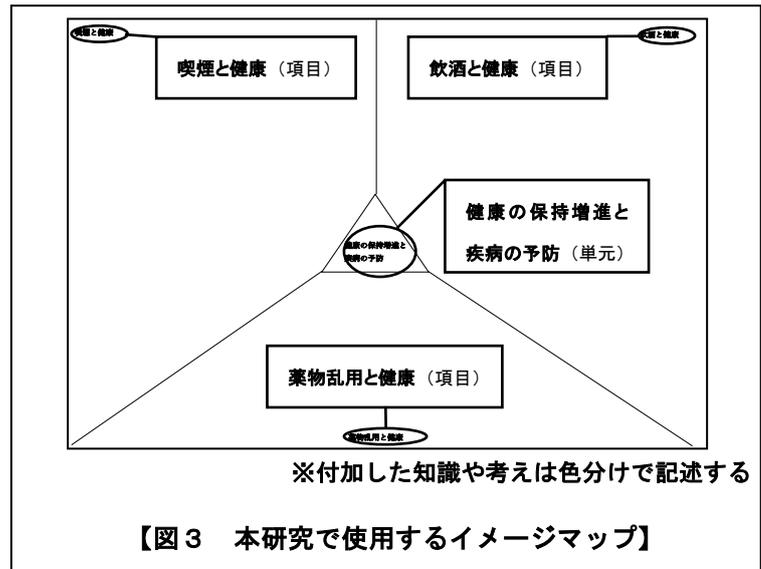
思考ツールの1つであるイメージマップは、中心円のテーマから思いついた知識や考えを記述していき、それらを繋げて思考の流れを可視化できることが特徴である【図2】。また、自分の考えを他者の考えや資料などと比較したり評価したりして付加することで、イメージマップ



【図2 イメージマップの記述の例】

に記述されている内容にもとづいて自分の考えを表現しやすくすることが可能となり、思考を支援するものである。

本研究では、内容が関連している項目を【図3】のように1枚のイメージマップにすることで、生徒が項目ごとに関連している知識や考えがあると気付くことができる。さらに、その気付きを、他の項目の知識や考えと比較したり、付加したりできると考える。

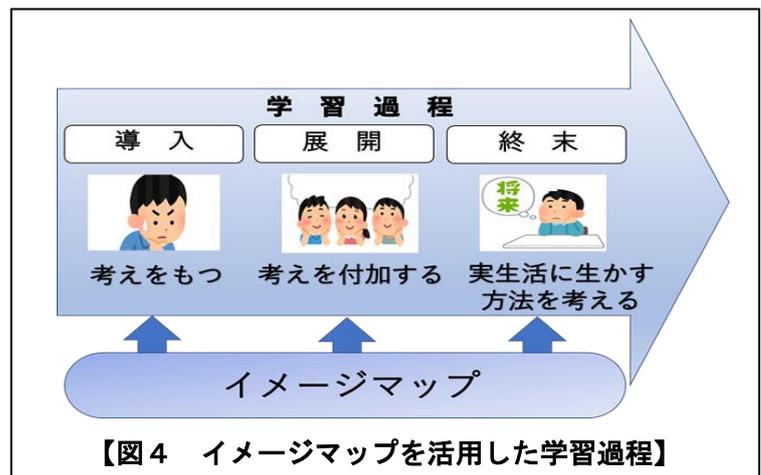


(2) 「イメージマップを活用した学習過程」について

「イメージマップを活用した学習過程」とは、導入、展開、終末の各段階のねらいに応じたイメージマップの活用を位置付けた1単位時間の学習過程である。

黒上(2017)は、思考ツールを活用する際に「①一人ひとりがアイデアを出す」、「②グループで、アイデアを共有して増やす」、「③アイデアを混ぜる」、「④一人ひとりが、『考え』をつくる」という4つのステップがあると述べている。

そこで、本研究においては、黒上の4つのステップを参考に、まず、導入の段階で、生徒に自分なりの考えをもたせる。次に、展開の段階で、他者の知識や考えを付加させる。最後に、終末の段階で、実生活に生かす方法を考えさせる学習過程を構成する【図4】。



III 研究の目標

イメージマップを活用した学習過程を通して、健康について深く考える生徒を育てる保健の学習指導の在り方を究明する。

IV 研究の仮説

科目保健の学習指導において、イメージマップを活用した学習過程を行えば、生徒は、「つくる思考」、「広げる思考」、「結び付ける思考」を段階的に働かせ、健康について深く考える生徒を育てることができるであろう。

V 研究の具体的構想

1 イメージマップを活用した学習過程

【表2】に学習過程の導入、展開、終末の各段階のねらいとイメージマップの活用を示す。

学習過程	導入	展開	終末
ねらい	健康課題を見出し、原因や解決方法などについて自分なりの考えをもつことができる。	新たな知識や考えを付加することができる。	実生活に生かす方法を考えることができる。
イメージマップの活用	イメージマップをもとに、原因や解決方法などを考える。	イメージマップをもとに、他者の知識や考え、資料などと、自分の考えを比較したり、評価したりする。	1単位時間で作成したイメージマップをもとに、知識や考えを見直す。

(1) 導入について

まず、授業の内容に関する発問や資料の提示などを行い、考える方向性を見通すことができるようにする。

次に、教師が設定した問いに対するキーワードをイメージマップに記入した後に、イメージマップをもとに問いに対する原因や解決方法などについて考える活動を仕組む。このことにより、自分なりの考えがもてるようにする。

(2) 展開について

まず、イメージマップをもとに、グループで意見交換する場を設定する。このことにより、イメージマップのキーワードや自分の考えについて、他者と比較したり、評価したりしながら、新たに気付いた知識や考えについて付加することができるようにする。

次に、教師が社会的な取組みについての資料を提示し、説明する。このことにより、新たな知識を付加できるようにする。

(3) 終末について

1単位時間で作成したイメージマップをもとに、学習した知識や自分の考えを見直す活動を仕組んだ後、実生活に生かす方法について考えさせる。このことにより、個人的な視点と社会的な視点を踏まえ、知識や考えを整理したり、関連付けたりしながら、実生活に生かす方法について考えることができるようにする。

2 イメージマップの活用を旺盛にする具体的支援

(1) 問いの設定

生徒が健康課題を見出せるように、教師が授業のねらいと関連させた問いを仕組む。

問いの設定のポイント

- ・ 1時間目から4時間目 生徒の経験などと結び付きやすい問いを設定する。
- ・ 5時間目から7時間目 背景や要因などを多面的に捉えなければならない問いや、架空の場面設定を通して、より課題意識を持って考えることができる問いを設定する。

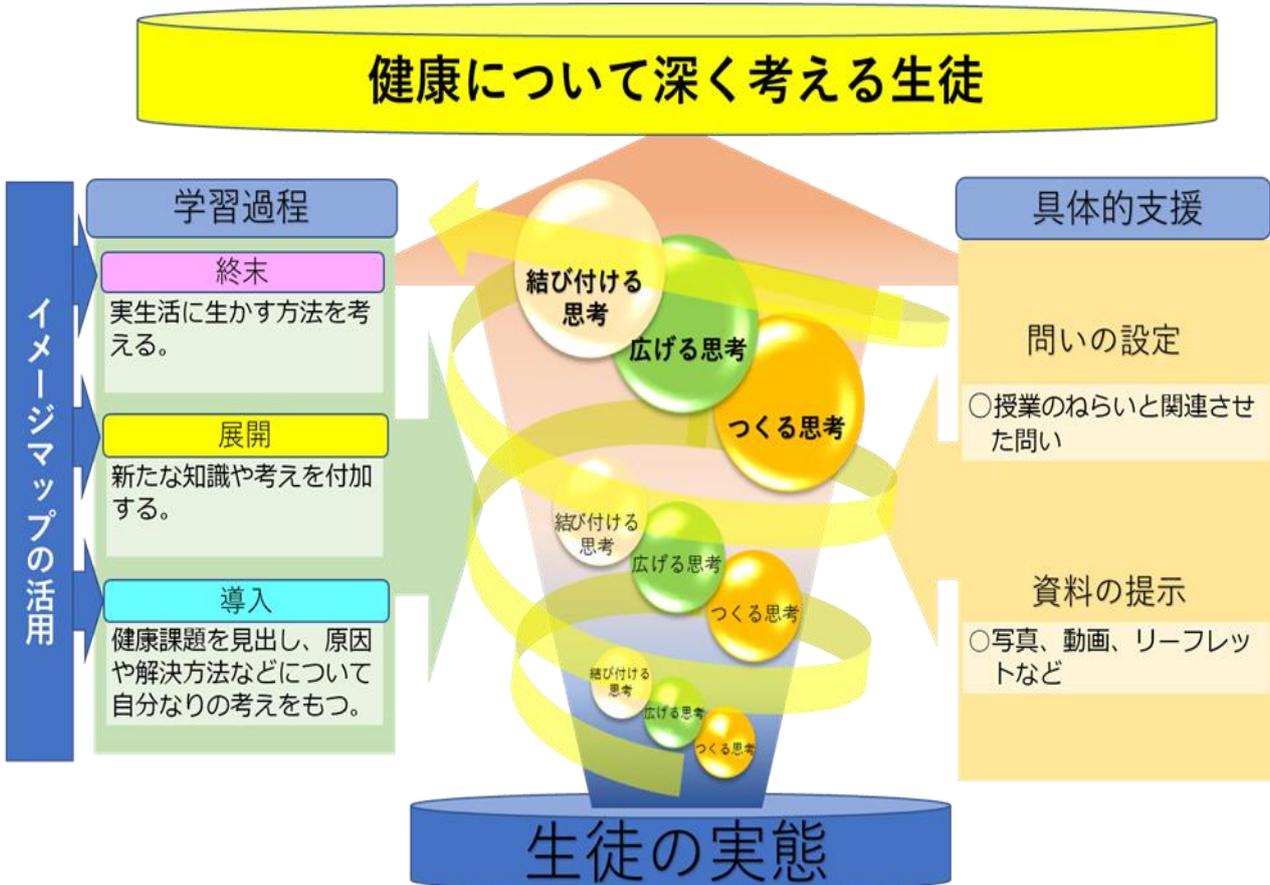
(2) 資料の提示

生徒が新たな視点に気付いたり、知識を付加したりすることができるよう、写真や動画、リーフレットなどの資料の提示を行う。

資料の提示のポイント

- ・健康課題に対する行政の対策や制度など社会的対策について考えることができる。
- ・実生活における意思決定や行動選択について考えることができる。

3 研究構想図



4 仮説検証の方途

(1) 対象

福岡県立北筑高等学校 第1学年1組 40名

(2) 期間

検証授業

令和2年 9月14日(月)～11月9日(月)

現代社会と健康 イ 健康の保持増進と疾病の予防

- ・(イ) 喫煙、飲酒と健康 項目「喫煙と健康」「飲酒と健康」
- ・(ウ) 薬物乱用と健康 項目「薬物乱用と健康」
- ・(エ) 感染症とその予防 項目「現代の感染症」「感染症の予防」「性感染症・エイズとその予防」
- ・学習のまとめ

※学習のまとめでは、(イ)～(エ)の学習内容を包括した授業を実施する。

(3) 内容と方法

	検証内容	検証方法	基準	判定基準
検証1	既存の知識を使って健康課題を見出し、それに対して原因や解決方法などについて自分なりの考えをもつことができているか。	導入における学習プリントやイメージマップの記述分析。	A	理由を踏まえて、具体的に原因や解決方法などを記述している。
			B	理由を踏まえて、原因や解決方法などを記述している。
			C	A、B以外。
検証2	自分なりの考えを他者の考えや資料などと比較したり評価したりして、新たな知識や考えを付加することができるか。	展開における学習プリントやイメージマップの記述分析。	A	新たな知識や他者の考えなど、複数の視点で付加し記述している。
			B	新たな知識や他者の考えなど、付加し記述している。
			C	A、B以外。
検証3	個人的な視点と社会的な視点を踏まえ、実生活で生かす方法を考えることができているか。	終末における学習プリントの記述分析。	A	個人的な視点と社会的な視点を踏まえて、具体的に記述している。
			B	個人的な視点と社会的な視点を踏まえて、記述している。
			C	A、B以外。

(4) アンケートについて

検証授業の事前事後で、アンケートを実施し、考察を行う。

「イメージマップの有効性に関するアンケート」

・イメージマップは、「自分の考えをつくる」、「考えを他者と比較したり評価したりして広げる」、「考えを実生活に結び付ける」ことに有効であったか。

「イメージマップを活用した学習過程の有効性に関するアンケート」

・イメージマップを使いながら、考えをつくり、新たな知識や考えなどの視点を付け加え、実生活に生かす方法を考えるという段階を踏んだ学習過程は、自分の健康について考えることに有効であったか。

「保健の授業に関するアンケート」

- ①保健の授業で健康に関する課題を見付けることは必要だと思いますか。
- ②保健の授業で健康に関する課題の原因や解決する方法などを考えることは必要だと思いますか。
- ③保健の授業で学習したことをまとめたり、友達に発表したりする際に、理由や根拠を挙げて説明することは必要だと思いますか。
- ④保健の授業で自分たちの日常生活の経験を取り上げて話し合ったりすることは必要だと思いますか。
- ⑤保健の授業で学んだことを自分の生活に『生かしたい』と思ったことはありますか。
- ⑥保健の授業の学習内容を自分自身の問題としてとらえていますか。

※アンケートについては、研究のまとめで述べる。

VI 研究の実際と考察

【検証授業】 全7時間（令和2年9月14日～11月9日）

1 授業の実際

(1) (イ) 喫煙、飲酒と健康 項目「喫煙と健康」

ねらい	喫煙の身体への影響と、その対策について考えることができるようにする。
-----	------------------------------------

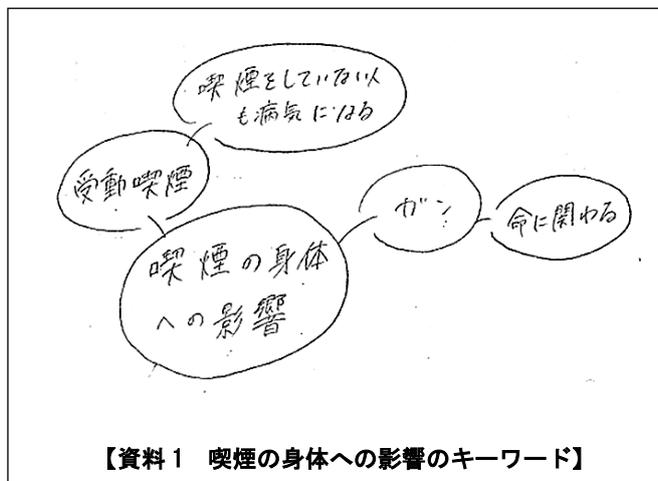
学習の展開

	学習活動	イメージマップの活用
導入	<ul style="list-style-type: none"> ○喫煙の身体への影響について考える。 ○「喫煙0（ゼロ）にならない原因は何か」、その原因を考え、対策を記述する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○喫煙の身体への影響を想起することができるよう、イメージマップにキーワードを記述する。 ○対策について考えをつくることができるよう、イメージマップに原因を記述する。
展開	<ul style="list-style-type: none"> ○イメージマップのキーワードや学習プリントに記述した内容について、グループで意見交換を行う。 ○喫煙に関する健康被害を防ぐ社会的な取組について、教師の説明を聞く。 	<ul style="list-style-type: none"> ○原因や対策について付加することができるよう、イメージマップの記述をもとに、他者と比較したり評価したりする。 ○対策について付加することができるよう、資料とイメージマップの記述内容を比較したり評価したりする。
終末	<ul style="list-style-type: none"> ○「今日考えたことをもとに、現在や将来に生かす方法」について考える。 ○授業の振り返りを行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ○実生活とつなげて考えさせることができるよう、イメージマップの記述をもとに、喫煙と健康を関連付けて考える。

導入

まず、喫煙に関する健康への影響を想起することができるように、イメージマップに、喫煙の身体への影響についてキーワードを書き出させた。イメージマップには、「受動喫煙」、「がん」などのキーワードの記述が見られた【資料1】。

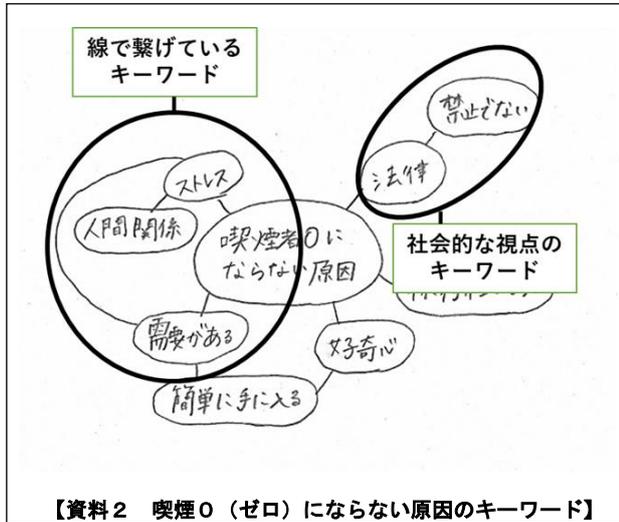
次に、喫煙者の推移のグラフを提示した。生徒は、喫煙者数は減少傾向にあるが、現在も一定数いることを読み取ることができていた。その後、「喫煙0（ゼロ）にならない原因は何か」という問いを提示し、イメージマップにその原因について書き出す活動を仕組んだ。イメージマップには、「ストレス」、「人間関係」、「需要がある」などのキーワードを関連付けている記述などが見られた。また、「法律」と「禁止でない」を関



【資料1 喫煙の身体への影響のキーワード】

連付けている社会的な視点のキーワードも見られた【資料2】。

そして、イメージマップに記述されたキーワードをもとに、喫煙への対策について考える活動を仕組んだ。その結果、生徒は、「法律で取り締まる」、「店でたばこを取り扱わない」などと記述していた【資料3】。



喫煙スペースなどをなくす。全面喫煙禁止
 店でたばこを取り扱わない。
 法律で取り締まる。

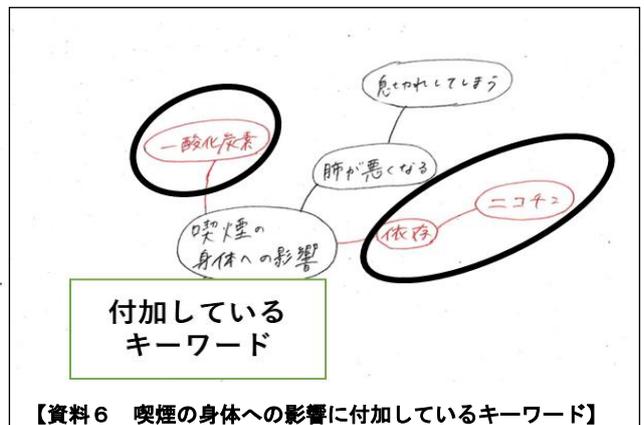
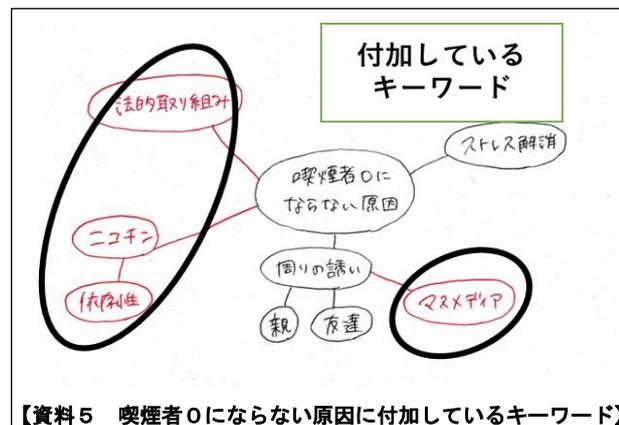
【資料3 喫煙への対策の記述】

展開

まず、イメージマップのキーワードや導入で考えた対策について、ペアやグループで意見交換する場を設定した【資料4】。生徒は、比較したり評価したりしながら、「依存性」や「ニコチン」など、新たに気付いた他者のキーワードや考えを付加していた。意見交換の中で、「身体への影響で考えた内容が生かせるのではないか」、「書いたキーワードを少し変えてみたらいいのでは」などの発言があり、喫煙0（ゼロ）にならない原因のイメージマップから、喫煙の身体への影響のイメージマップに戻り、最初の考えから見直している生徒もいた【資料5】【資料6】。



次に、社会的な対策の視点を付加できるよう、健康被害を防ぐ法的取組をスライドで説明した。しかし、生徒は新たな知識や視点をあまり付加できていない様子であった。



終末

まず、自分のイメージマップや考えた内容を見直し、実生活に生かす方法を考える活動を仕組んだ。

【資料7】【資料8】のように、「正しい知識を学ぶ」や「自分の身体にも悪影響になるため、他の人にも吸わないように注意をしていく」など、個人的な視点で実生活に生かす方法を記述している生徒が多く見られた。しかし、社会的な視点を踏まえて、実生活に生かす方法を記述している生徒は、あまり見られなかった。

身体にどのような影響があるのか正しい知識を学んで、
 吸っている人は受動喫煙にならないように周りに配慮して、
 たばこを吸い始めてしまう理由になる「周りの影響」を「かこい」
 と思ってしまう考えを無くしていく必要がある。

【資料7 実生活に生かす方法の記述-①】

自分が喫煙することによって、周りにいる人も巻き込んでしまうし、
自分の身体にも悪影響になるため、他の人にも吸われないように、
注意をしていく。

【資料8 実生活に生かす方法の記述-②】

次に、授業の振り返りの際に、WHOの世界の受動喫煙規制状況【資料9】と健康増進法の一部を改正する法律の概要【資料10】の資料を提示し、世界と比較した日本の受動喫煙規制状況や受動喫煙に関する健康増進法の改訂の趣旨を説明した。生徒は、喫煙者の立場だけでなく、非喫煙者の立場でも社会的な対策を考える必要性を感じたようであった。

世界の受動喫煙規制状況について (WHOの調査)

○世界の186か国中、公衆の集まる場 (public places) すべて (8種類) に屋内禁煙義務の法律があるのは55か国
 ○日本は、**屋内禁煙義務の法律がなく最低区分**

禁煙場所の数	国数	代表的な国
8種類すべて	55か国	英国、カナダ、ロシア、ブラジル、スペイン、ノルウェー等
6~7種類	23か国	ポルトガル、インド、ハンガリー等
3~5種類	47か国	ポーランド、韓国、シンガポール等
0~2種類	61か国	日本、米国、ドイツ、マレーシア等

公衆の集まる場 (public places)とは、
 ①医療施設 ②大学以外の学校 ③大学 ④行政機関(※)
 ⑤事業所 ⑥飲食店 ⑦バー ⑧公共交通機関

※国会等を含む。
 出典: "WHO report on the global tobacco epidemic. 2017"

【資料9 世界の受動喫煙規制状況について】
 厚生労働省ホームページより

健康増進法の一部を改正する法律 (平成30年法律第78号) 概要

改正の趣旨

望まない受動喫煙の防止を図るため、多数の者が利用する施設等の区分に応じ、当該施設等の一定の場所を除き喫煙を禁止するとともに、当該施設等の管理について権原を有する者が講ずべき措置等について定める。

【基本的考え方 第1】「望まない受動喫煙」をなくす
 受動喫煙が他人に与える健康影響と、喫煙者が一定程度いる現状を踏まえ、屋内において、受動喫煙にさらされることを望まない者がそのような状況に置かれることのないようにすることを基本に、「望まない受動喫煙」をなくす。

【基本的考え方 第2】受動喫煙による健康影響が大きい子ども、患者等に特に配慮
 子どもなど20歳未満の者、患者等は受動喫煙による健康影響が大きいことを考慮し、こうした方々が主たる利用者となる施設や、屋外について、受動喫煙対策を一層徹底する。

【基本的考え方 第3】施設の類型・場所ごとに対策を実施
 「望まない受動喫煙」をなくすという観点から、施設の類型・場所ごとに、主たる利用者の違いや、受動喫煙が他人に与える健康影響の程度に応じ、禁煙措置や喫煙場所の特定を行うとともに、掲示の義務付けなどの対策を講ずる。
 その際、既存の飲食店のうち経営規模が小さい事業者が運営するものについては、事業継続に配慮し、必要な措置を講ずる。

【資料10 健康増進法の一部を改正する法律の概要】
 厚生労働省ホームページより

(2) (1) 喫煙、飲酒と健康 項目「飲酒と健康」

ねらい	飲酒の健康への影響と、飲酒への対策について考えることができるようにする。
-----	--------------------------------------

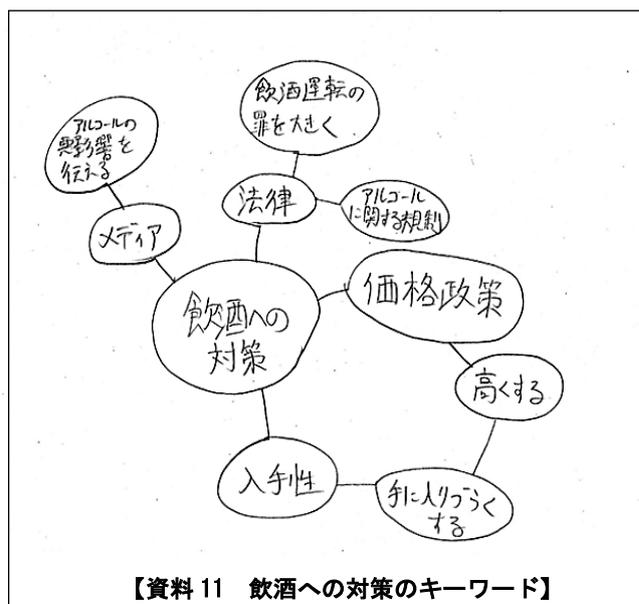
学習の展開

	学習活動	イメージマップの活用
導入	○飲酒の健康への影響と開始の要因を考える。 ○「飲酒への対策」について考える。	○飲酒への対策について自分の考えをつくることのできるよう、イメージマップにキーワードを記述する。
展開	○イメージマップのキーワードや学習プリントに記述した内容について、グループで意見交換を行う。 ○飲酒に関する健康被害を防ぐ社会的取組について、教師の説明を聞く。	○対策について付加することができるよう、イメージマップの記述をもとに、他者と比較したり評価したりする。 ○対策について付加することができるよう、資料とイメージマップの記述内容を比較したり評価したりする。
終末	○「今日考えたことをもとに、現在や将来に生かす方法」について考える。 ○授業の振り返りを行う。	○実生活とつなげて考えることができるよう、イメージマップの記述内容をもとに、飲酒と健康を関連付けて考える。

導入

まず、飲酒の健康への影響を想起することができるように、「飲酒したらどのような影響がでるか」と発問すると、生徒からは、「酔っぱらってふらつく」、「アルコール中毒になる」などの発言があった。さらに、「飲酒開始の要因はなんだろうか」と発問すると「単純に興味があるのではないか」、「大人が飲酒しているから、それを見た子どもが、飲酒することは普通のことと思っているのではないか」などの発言があった。そして、「高校生の飲酒実態について」のスライドを提示し、飲酒の実態と生徒の発言を比較させ、飲酒の開始の要因は特別な理由ではないことを認識させた。

次に、「飲酒への対策を考えてみよう」という問いを提示し、イメージマップに飲酒の対策について書き出す活動を仕組んだ。生徒の中には、イメージマップに「入手性」、「法律」、「メディア」などのキーワードを先に記述して、関連するキーワード



【資料 11 飲酒への対策のキーワード】

を書いている姿があった【資料11】。

そして、イメージマップに記述されたキーワードをもとに対策について整理させた。記述された内容には、アルコール飲料の価格を上げるやマスメディアによる啓発などが見られた【資料12】。

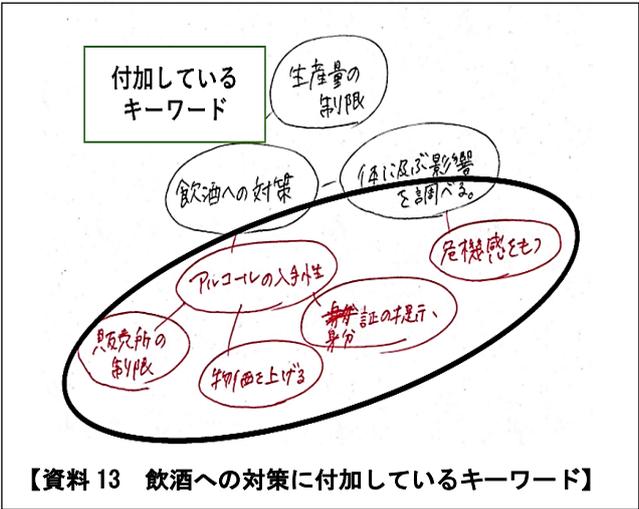
アルコールを飲みづらくするために、アルコール飲料の価格を高くしたり、マスメディアを活用して、アルコールの危険性を世間に伝えていく、アルコールの過剰摂取やアルコール関係の事故・事件を減らすため、一日に飲める量を定めたり、アルコール飲料の安全性を厳しく検査したり、飲酒運転などの処罰をさらに重くする

【資料12 飲酒への対策の記述】

展開

まず、イメージマップのキーワードや導入で考えた対策について、グループで意見交換する場を設定した。生徒は、比較したり評価したりしながら、「アルコールの入手性」や「販売所の制限」など、新たに気付いたことを付加していた【資料13】。

次に、社会的な対策の視点を付加できるよう、WHOの「アルコールの有害な使用を提言するための世界戦略」の資料【資料14】を提示して説明した。その結果、生徒は、酒類の販売方法やコマーシャル、飲食店での飲み放題などに関して学習プリントに付加することができた【資料15】。



WHO「アルコールの有害な使用を提言するための世界戦略」

10分野の政策オプションの概要

- 分野1 リーダーシップ、自覚とコミットメント
- 分野2 保健医療サービスの対応
- 分野3 地域社会の活動
- 分野4 飲酒運転に関する方針と対策
- 分野5 アルコールの入手性
- 分野6 アルコール飲料のマーケティング(広告等の販売促進活動)
- 分野7 価格設定政策
- 分野8 飲酒およびアルコール酩酊による悪影響の低減
- 分野9 違法または非正規に製造されたアルコールが公衆衛生に与える影響の低減
- 分野10 モニタリングと監視

【資料14 アルコールの有害な使用を提言するための世界戦略の資料】
WHO ホームページより

付加している記述

酒と色かはしずりにするらしい

酒屋にしか置かないようにする。
CMの量を減らす。

お一人様か買入量の制限。
飲み放題、コンビニでの販売の時間、店に並べる量を減らす、制限

【資料15 飲酒への対策に付加している記述】

終末

まず、自分のイメージマップや考えた内容を見直し、実生活に生かす方法を考える活動を仕組んだ。生徒の中には「タバコと同様、酒税の増税をし、価格を高くする」との記述もあり、前時の授業と関連させることができていた様子が窺えた【資料 16】。しかし、「体や精神に及ぼす影響を詳しく調べ、お酒に対する関心を少しで良いので下げていく」【資料 17】という記述のように、個人的な視点の記述が多く見られ、前時と同様に社会的な視点の記述はあまり見られなかった。

アルコール入手が容易であるから、売り時間を決めたり、タバコと同様
酒税の増税をし、価格を高くする。飲酒量を抑えるから、飲酒量
制限を厳しくする。もしくは呼気のアルコール量を検知するセンサーを
開発し車につける。また、お酒を提供する際に厳格に運転手か
らうかを確認する制度を設ける

【資料 16 実生活に生かす方法の記述-①】

今回の授業で「学んだことはたくさんなく、体や精神に及ぼす影響を詳しく調べ」
お酒に対する関心を少しで良いので「下げ」ていくべきではないかと感じました。
個人の対策も大切ではあると思いますが、家族で「協力して制限をするなど」
周りと助け合いながら前向きに、飲酒への意識を変えていくことも一つの方法
ではないかと今回学習を通し考えることになりました。

【資料 17 実生活に生かす方法の記述-②】

次に、飲酒の様々な影響をスライドで提示した【資料 18】。過度な飲酒は自分自身の健康だけでなく、家族や地域社会など多岐に渡り影響することを説明した。生徒は、飲酒の健康への影響だけでなく、家族や社会にも影響を与える可能性があることを改めて学び、個人的な対策だけでなく、法的整備やアルコール依存症の回復の支援など社会的な対策にも目を向けて考えなければならないと感じた様子であった。



【資料 18 飲酒の様々な影響のスライドの提示】

(3) (ウ) 薬物乱用と健康 項目「薬物乱用と健康」

ねらい	薬物乱用の影響と、その対策について考えることができるようにする。
-----	----------------------------------

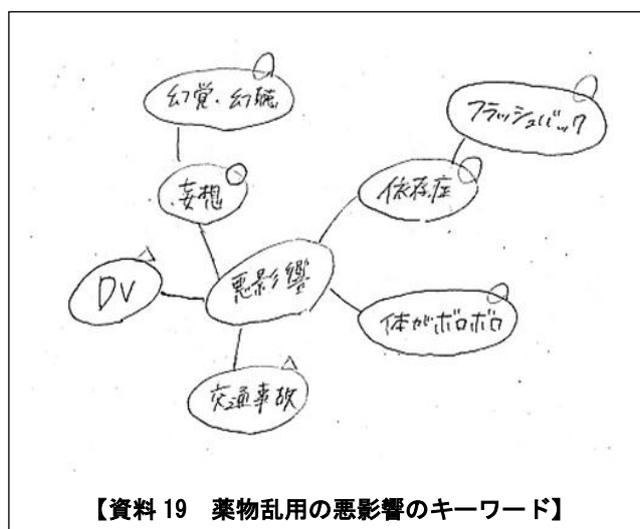
学習の展開

	学習活動	イメージマップの活用
導入	<ul style="list-style-type: none"> ○薬物乱用に関する動画を視聴する。 ○薬物を乱用することの悪影響について考え、対策を記述する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○対策について考えをつくることができるよう、イメージマップに悪影響についてキーワードを記述する。
展開	<ul style="list-style-type: none"> ○イメージマップのキーワードや学習プリントに記述した内容について、グループで意見交換を行う。 ○法律による取締りや国際的な取組み、乱用防止対策について、教師の説明を聞く。 	<ul style="list-style-type: none"> ○悪影響や対策について付加することができるよう、イメージマップの記述をもとに、仲間と比較したり評価したりする。 ○対策について付加することができるよう、資料とイメージマップの記述内容を比較したり評価したりする。
終末	<ul style="list-style-type: none"> ○「薬物乱用がない社会にするために、自分たちができること」について考える。 ○授業の振り返りを行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ○実生活とつなげて考えることができるよう、イメージマップの記述内容をもとに、薬物乱用と健康を関連付けて考える。

導入

まず、薬物乱用の影響を想起することができるように、福岡県の薬物乱用防止啓発サイトの大麻乱用防止動画を視聴させた。

次に、「薬物を乱用するとどのような悪影響がでるか」という問いを提示し、イメージマップに薬物乱用の悪影響について書き出す活動を組んだ。イメージマップには、「依存症」、「妄想」、「幻覚、幻聴」などのキーワードが見られた【資料19】。その後、イメージマップに記述されたキーワードをもとに、対策を考える活動を組んだ。その結果、生徒は、「薬物は海外から輸入されたりするので、空港などでの薬物の取り締まりを強化する」や「薬物についての講義を受講する回数を増加させていく必要があると思う」などと記述していた【資料20】【資料21】。



【資料19 薬物乱用の悪影響のキーワード】

薬物は輸入されたりするので、空港などでの
海外から
薬物の取り締まりを強化して、薬物の乱用や広
がりをおさえること

【資料 20 薬物乱用への対策の記述-①】

違法薬物に対する、正しい知識がまだ、不十分だと思う
ので、身につけていくことと、薬物についての講義を受
講する回数を増加させていく必要があると思う。

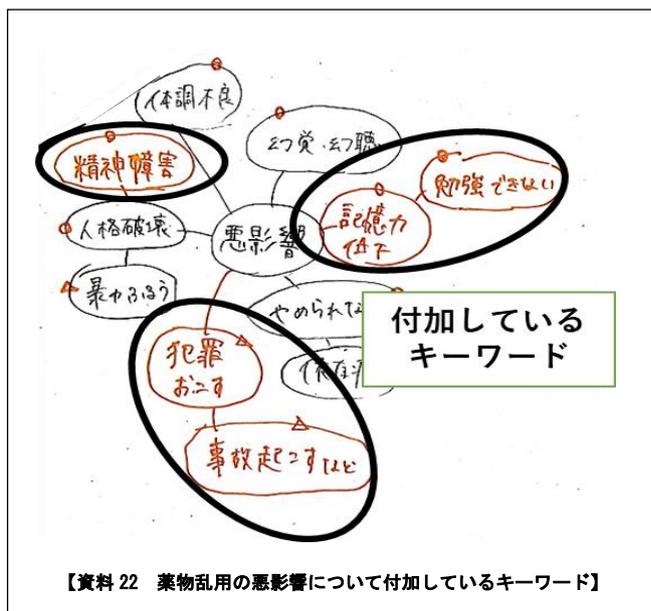
【資料 21 薬物乱用への対策の記述-②】

展開

まず、イメージマップのキーワードや導入で考えた対策について、グループで意見交換する場を設定した。生徒は、他者のキーワードや考えを比較したり評価したりしながら、【資料 22】のように、イメージマップには、「事故を起こす」や「記憶力低下」など、新たに気付いたことを付加していた。また、【資料 23】のように薬物乱用への対策を記述する際には、「薬物の講義を多くする」などを付加していた。

次に、社会的な取組や防止策について、厚生労働省・都道府県の麻薬・覚醒剤乱用防止運動の資料【資料 24】と法律による取り締まり、国際的な取組や乱用防止対策のスライド【資料 25】を提示して説明した。生徒からは、「学校で行われる薬物乱用防止教室は必要だ」や「薬物を使ってしま

くらいストレスや不安を抱えている人に対するケアが必要ではないか」などの発言があり、その内容を学習プリントに付加して記述していた【資料 26】。



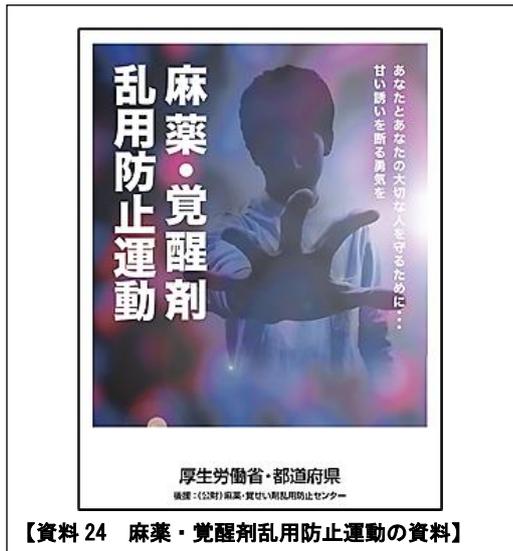
【資料 22 薬物乱用の悪影響について付加しているキーワード】

薬物を始めてしまう人の99%は好奇心などがきっかけだと思うので、
 薬物による悪影響をもっとみんなに知ってもらおう。
 薬物の使用経験者で、今は更生している人などが話を聞いて
 現実味を与える。カウンセリングを身近なものにする。

罪を重くする(薬物使用に対する)
薬物の講義を99%にする。

付加している
記述

【資料 23 対策に付加している記述】



【資料 24 麻薬・覚醒剤乱用防止運動の資料】

法律による厳しい取り締まり

- ・大麻取締法、麻薬及び向精神薬取締法、覚せい剤取締法など法律の整備

国際的な取り組み

- ・国連薬物犯罪事務所の活動
- ・各国警察間の連携
- ・空港などで入国時の検査(麻薬探知犬)

乱用防止対策

- ・学校での教育
- ・薬物乱用防止キャラバンカーの活動
- 正しい知識の普及、薬物を拒否する価値観規範意識の形成

【資料 25 対策のスライド】

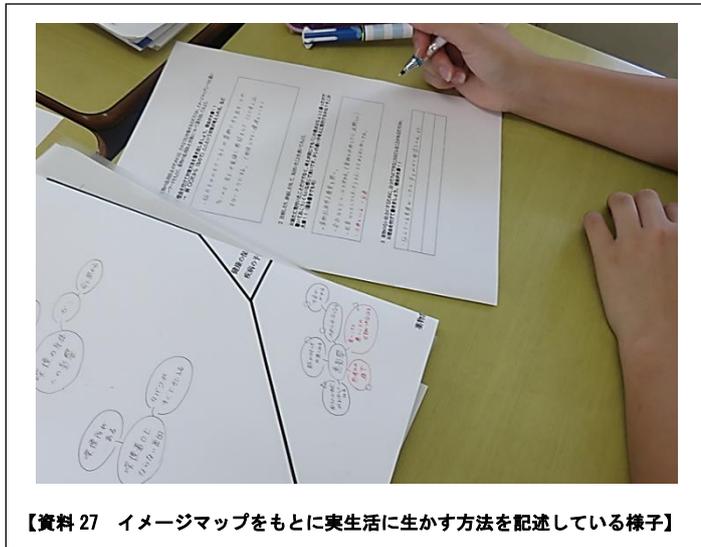
○呼びかけを行う。
○ストレスや不安を抱えている人にリラックスさせる。
 ○国際的な取り組み(空港などで入国時の検査)麻薬探知犬
○乱用防止対策(学校の教育)

【資料 26 発言内容を付加している記述】

終末

まず、自分のイメージマップや考えた内容を見直し、実生活に生かす方法を考える活動を仕組んだ【資料 27】。生徒の記述には、「情報を発信すること」や「法律での取り締まり」など、社会的な視点を踏まえた記述が、前時よりも多く見られた【資料 28】【資料 29】。

次に、元薬物常用者の手記の資料を提示した。生徒は、真剣に話を聞き、薬物乱用は決して行ってはならないし、社会もこれを許してはならないことを理解したようであった。



【資料 27 イメージマップをもとに実生活に生かす方法を記述している様子】

非行防止のポスター制作など身近な場所に薬物を知る機会が"たくさんあると思うので"、積極的に参加し、知識をより深めたい"と"ある知識を自分の頭に留めるの"ではなく、情報を発信すること"が"大切!

【資料 28 実生活に生かす方法の記述-①】

薬物に対する法律を厳しくしたり、空港などの場所下取り締まりを強化
することや、自分自身でも、薬物を使う必要のないような生活を送ったり
 して、先輩や友人に誘われても断る勇気をもつ。

【資料 29 実生活に生かす方法の記述-②】

(4) (I) 感染症とその予防 項目「現代の感染症」

ねらい	感染症の発生や流行の原因について考えることができるようにする。
-----	---------------------------------

学習の展開

	学習活動	イメージマップの活用
導入	<ul style="list-style-type: none"> ○感染症の発生や流行の原因について考える。 ○「森林伐採などによる環境の変化が与える感染症への影響」と「発生が一時期減少した感染症が再び増加した理由」について考え記述する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○環境の変化の影響と再び増加した理由について考えをつくることができるよう、イメージマップにキーワードを記述する。
展開	<ul style="list-style-type: none"> ○イメージマップのキーワードや学習プリントに記述した内容について、グループで意見交換を行う。 ○新興感染症と再興感染症に関するグラフなどの資料について、教師の説明を聞く。 	<ul style="list-style-type: none"> ○環境の変化の影響と再び増加した理由について付加することができるよう、イメージマップの記述をもとに、仲間と比較したり評価したりする。 ○環境の変化の影響と再び増加した理由について付加することができるよう、資料とイメージマップの記述内容を比較したり評価したりする。
終末	<ul style="list-style-type: none"> ○「感染症対策」について考える。 ○授業の振り返りを行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ○実生活とつなげて考えることができるよう、イメージマップの記述内容をもとに、感染症と対策を関連付けて考える。

導入

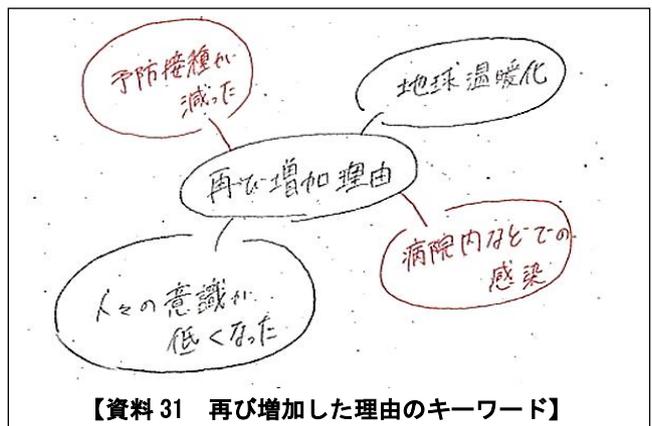
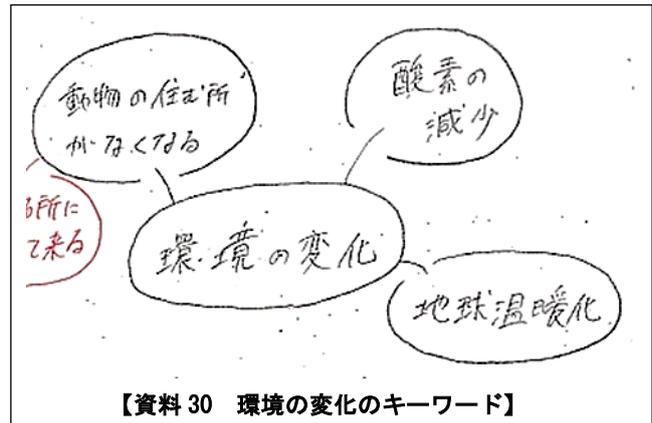
まず、感染症の発生や流行の原因を想起することができるように、新型コロナウイルスの写真を提示し、「新型コロナウイルス感染症の発生や流行の原因について知っていることはないか」と発問した。生徒からは、発生の原因については、「動物が持つウイルスが変異して人に感染したと言われている」

などの発言があった。また、流行の原因については、「感染力が強いから」や「感染者が無症状の場合があるので、知らない間に感染させている可能性があるから」などの発言があった。インフルエンザの発生や流行の原因にも触れ、感染症は様々な影響を受けて発生したり流行したりすることを確認した。

次に、「森林伐採などによる環境の変化が与える感染症への影響はどのようなものがあるか」という問いを提示し、イメージマップに環境の変化の影響について記入させた。生徒は、問いに示された「森林伐採」から「動物の住む所がなくなる」や「地球温暖化」などを考え、イメージマップに記述していた【資料30】。さらに、「発生が一時期減少した感染症が再び増加した理由はなにか」という別の問いを提示し、イメージマップに再び増加した理由について記入させた。イメージマップには、「人々の意識が低くなった」や「地球温暖化」などの記述が見られた【資料31】。

そして、イメージマップに記述されたキーワードをもとに、影響と理由について整理させた。

その結果、生徒は、「動物の住む場所がなくなってしまい、人々が住んでいる場所に来る。その動物が病気をもっていたりすると感染する」や「予防接種をする事が減ったため、抗体ができなくなった」などと記述していた【資料32】【資料33】。



動物の住む場所がなくなってしまう、人々が住んでいる場所に来る。
→ その動物が病気をしていたりすると感染する。

【資料32 環境の変化の記述】

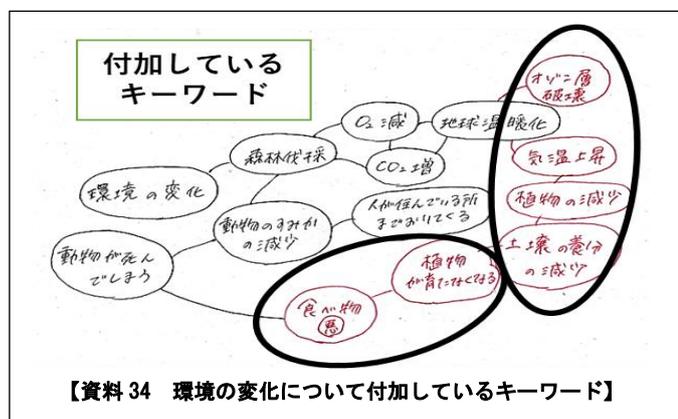
予防接種をする事が減ったため、抗体ができなくなった。
人々の意識が低下した。

【資料33 再び増加した理由の記述】

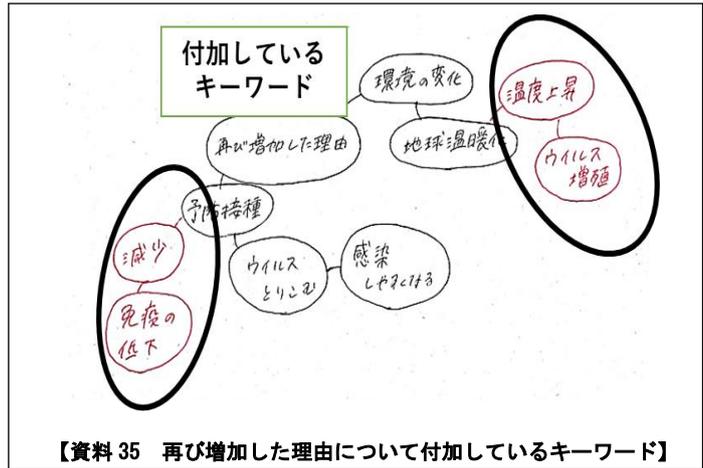
展開

まず、イメージマップのキーワードや導入で考えた環境の変化や感染症が再び増加した理由について、グループで意見交換する場を設定した。生徒は、他者のキーワードや考えと比較したり評価したりしながら、「気温上昇」や「ウイルス増殖」など、新たに気付いた他者のキーワードや考えを付加していた【資料34】【資料35】。

次に、環境の変化が与える感染症への影



響に関しては、森林が伐採されている写真と野生動物の写真を提示した。さらに、感染症が再び増加した理由に関しては、麻疹累積報告数の推移のグラフや予防接種の写真を提示して説明した。生徒からは、「新型コロナウイルス感染症のことを考えると、ウイルスの突然変異が人に与える影響は大きいとわかる」や「予防接種率の低下が感染症を広げる原因になるのか」などの発言があり、その内容を付加していた【資料36】。



【資料35 再び増加した理由について付加しているキーワード】

ウイルスの突然変異
予防接種率の低下
感染機会の低下

- ・自然環境(気温, 湿度など)
- ・社会環境(衛生状態, 交通機関の発達など)
→ 時代や地域によって異なる

【資料36 発言内容を付加している記述】

終末

まず、本時を振り返ることができるよう、新興感染症と再興感染症の出現する理由、問題点のスライドを提示した。生徒は、スライドを見ながら、イメージマップをもとに考えた記述などを見直していた【資料37】。



【資料37 終末の振り返りでスライドを見ている様子】

次に、自分のイメージマップや考えた内容を見直し、実生活に生かす方法を考える活動を仕組んだ。「環境問題についてまず考えていく」や「感染症の流行を防ぐために環境衛生を充実させる」などの社会的視点を踏まえた記述があった【資料38】【資料39】。

一見、環境の問題と感染症とかの関わりはないように思えるけれど、実はいろいろな環境問題には共通のものが多く、最後にエフィカスの環境問題についてまず考えていく。
常に病気にかかる可能性があると思って予防接種などを受けていく。

【資料38 実生活に生かす方法の記述-①】

予防接種を定期的に受けたり、免疫を低下させないように適度な運動をし、感染症などの流行を防ぐために環境衛生を充実させるような行動をとりたい。

【資料39 実生活に生かす方法の記述-②】

(5) (E) 感染症とその予防 項目「感染症の予防」

ねらい	感染症予防の原則と関連付けながら、感染症の流行を防ぐ対策を考えることができるようにする。
-----	--

学習の展開

	学習活動	イメージマップの活用
導入	<ul style="list-style-type: none"> ○今までに実践した身近な感染症の予防対策について考える。 ○「未知のウイルス『クラゲウイルス』の流行を防ぐ感染症対策」について考えを記述する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○感染症対策について考えをつくることができるよう、イメージマップにキーワードを記述する。
展開	<ul style="list-style-type: none"> ○イメージマップのキーワードや学習プリントに記述した内容について、グループで意見交換を行う。 ○感染症予防に関して社会に求められることと個人に求められることについて、教師の説明を聞く。 	<ul style="list-style-type: none"> ○感染症対策について付加することができるよう、イメージマップの記述をもとに、仲間と比較したり評価したりする。 ○感染症対策について付加することができるよう、イメージマップの記述をもとに、資料と記述内容を比較したり評価したりする。
終末	<ul style="list-style-type: none"> ○「社会全体への感染症の流行を防ぐために、自分はどのような感染症対策をする必要があるだろうか」について考える。 ○授業の振り返りを行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ○実生活とつなげて考えることができるよう、イメージマップの記述内容をもとに、感染症と対策を関連付けて考える。

導入

まず、身近な場面でどのような感染症対策を行っていたかを想起することができるよう、学校で開催された大運動会の写真を提示した【資料 40】。生徒からは、「マスクを着けていた」、「人との距離を意識した」、「無観客だった」などの発言があった。その後、スポーツ庁の「安全に運動・スポーツをするポイントは？」のリーフレット【資料 41】を提示した。リーフレットに示されている「体調をチェック」、「感染防止の3つの基本」、「運動・スポーツの種類ごとの留意点」に着目させることで、大運動会の感染症対策はスポーツ庁が示し



【資料 40 大運動会の写真の提示】

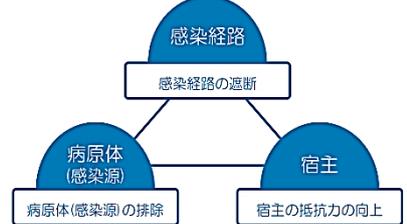
ている感染症対策に対応していることを気付かせた。すると、生徒からは「人と距離をとることやマスクの着用は同じである」や「全部、対策としてやっていたことだ」などの発言があった。さらに、「感染症予防の原則を知っているか」と発問したところ、感染源対策と感染経路対策に関する発言はあったが、感受性者対策の発言は無かった。そこで、感染症予防の原則を確認することができるよう厚生労働省の感染症対策のスライド【資料42】を示した。

次に、架空の設定として、「未知のウイルス『クラゲウイルス』の流行を防ぐ感染症対策とはどのようなことが考えられるか」という問いを提示し、イメージマップにその対策について書き出す活動を仕組んだ。さらに、現在クラゲウイルスについて分かっていることとして「動物から人、人から動物への感染が考えられる」や「熱に弱くアルコール消毒も有効である」などを設定した。イメージマップには、「アルコール消毒を行う」「衣服をすぐ洗う」など、感染源対策や感染経路対策と関連させて考えている記述が見られた【資料43】。

そして、イメージマップに記述されたキーワードをもとに、対策を整理させた。その結果、生徒は、「どんな種類のウイルスでも基本的なことはほとんど変わらない」などと記述していた【資料44】。

【資料41 安全に運動・スポーツをするポイントのリーフレット】
スポーツ庁ホームページより

感染症は①病原体（感染源）②感染経路 ③宿主の3つの要因が揃うことで感染します。感染対策においては、これらの要因のうちひとつでも取り除くことが重要です。特に、「感染経路の遮断」は感染拡大防止のためにも重要な対策となります。



【資料42 感染症対策の資料】
厚生労働省ホームページより

【資料43 クラゲウイルスへの対策のキーワード】

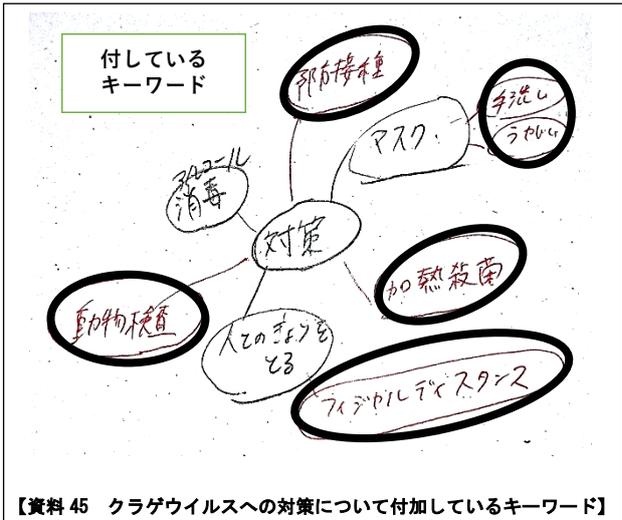
どんな種類のウイルスでも基本的なことはほとんど変わらないと思うので、小さなことを見つけてみる。手洗いやマスクをすることなど、何でもおこなう。

【資料44 クラゲウイルスへの対策の記述】

展開

まず、イメージマップのキーワードや導入で考えた対策について、グループで意見交換する場を設定した。生徒は、他者のキーワードや考えと比較したり評価したりしながら、新たに気付いたことを付加していた。生徒は意見交換の中で、「フィジカルディスタンスなどコロナウイルス対策の考え方がそのまま使える内容があるのではないか」や「動物に関しても検査が必要ではないか」など意見交換によって新たな視点を付加していた【資料45】。

次に、改めて個人や社会にどのような感染症対策が求められているか考えることができるよう、新型コロナウイルス接触確認アプリ【資料46】の紹介や新しい生活様式のリーフレット【資料47】などを提示した。生徒は、「新型コロナウイルス接触確認アプリは、お母さんがスマートフォンに入れていたから知っている」や「新しい生活様式も、普通に日常生活で取り組んでいる」などの発言があった。その後、感染症対策は個人の対策が基本であるが、個人での対策を踏まえ社会全体で取り組んでいかなければならないことを説明し、生徒は個人や社会それぞれに、感染症対策の役割があることを理解したようであった。



【資料45 クラゲウイルスへの対策について付加しているキーワード】

【資料46 新型コロナウイルス接触確認アプリの資料】

厚生労働省ホームページより

【資料47 新しい生活様式のリーフレット】

福岡県ホームページより

終末

まず、自分のイメージマップや考えた内容を見直し、実生活に生かす方法を考える活動を仕組んだ。生徒の記述には、「国などが発信する情報などを使って対策できるようにする」といった情報の活用についての記述が見られた【資料48】。また、「手洗いやうがい」などの基本的な感染症対策の記述とともに、「個人的に危機感をもって、一つ一つの行動に責任を持つことが必要である」というような、自分自身のこととして、真剣に感染症対策を捉えている記述も見られた【資料49】。

自分一人では問題を解決することはできないが、一人一人が消毒やフィジカルディスタンスを認識し、国などが発信する情報などを使って対策できるようにする。

【資料 48 実生活に生かす方法の記述-①】

手洗いやうがいなど、基本的なことを行うのも大切ではあるが、このような行動を始めたばかりのころには、個人的に危機感をもつ、一つの行動に責任をもつことが必要である。

【資料 49 実生活に生かす方法の記述-②】

次に、振り返りの中で、「感染症対策が完璧であれば、感染症を引き起こすウイルスに感染しないと思うか」と発問したところ、生徒は「絶対とは言い切れないと思う」と答えた。その後、日常生活における感染症対策は、感染を完全に排除できることではないことに気付くことができるよう、WHO の「低リスクは無リスクではない」のリーフレット【資料 50】を提示した。生徒からは、「考えてみると、確かに感染のリスクが完全になくなるわけではない」や「これからまた、新型コロナウイルス感染症のような未知のウイルスが発生しても、基本は感染症のリスクを下げることだ」などの発言があり、改めて感染症対策の重要性を感じているようであった。



(6) (E) 感染症とその予防 項目「性感染症・エイズとその予防」

ねらい	感染症予防の原則と関連付けながら、性感染症の個人的な対策や社会的な対策を考えることができるようにする。
-----	---

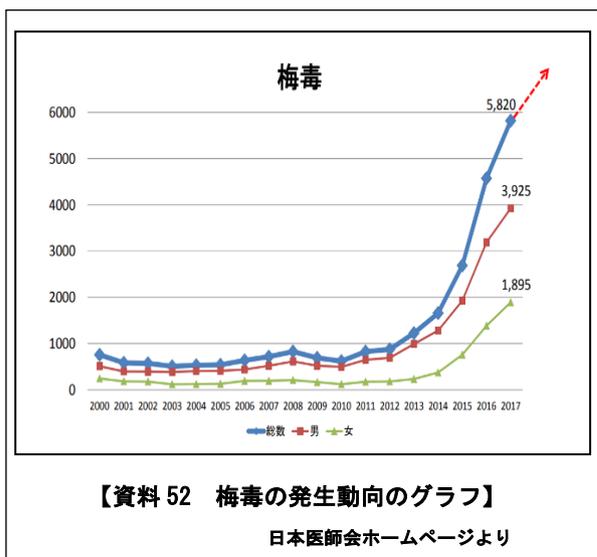
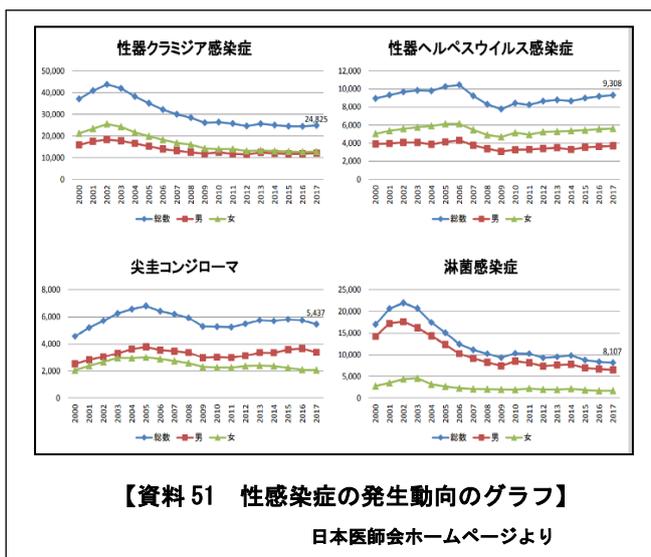
学習の展開

	学習活動	イメージマップの活用
導入	<ul style="list-style-type: none"> ○性感染症が広がる原因について考える。 ○「新規 HIV 感染者の3割がエイズを発症して感染が判明する『いきなりエイズ』」について、その問題点を考え、対策を記述する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○対策について考えをつくることのできるよう、イメージマップに問題点についてキーワードを記述する。

展開	<p>○イメージマップのキーワードや学習プリントに記述した内容について、グループで意見交換を行う。</p> <p>○性感染症予防の社会に求められることと個人に求められることについて、教師の説明を聞く。</p>	<p>○対策について付加することができるよう、イメージマップの記述をもとに、仲間と比較したり評価したりする。</p> <p>○対策について付加することができるよう、資料とイメージマップの記述内容と比較したり評価したりする。</p>
終末	<p>○「社会全体への性感染症の流行を防ぐために、自分はどうような感染症対策をする必要があるだろうか」について考える。</p> <p>○授業の振り返りを行う。</p>	<p>○実生活とつなげて考えることができるよう、イメージマップの記述内容をもとに、性感染症と対策を関連付けて考える。</p>

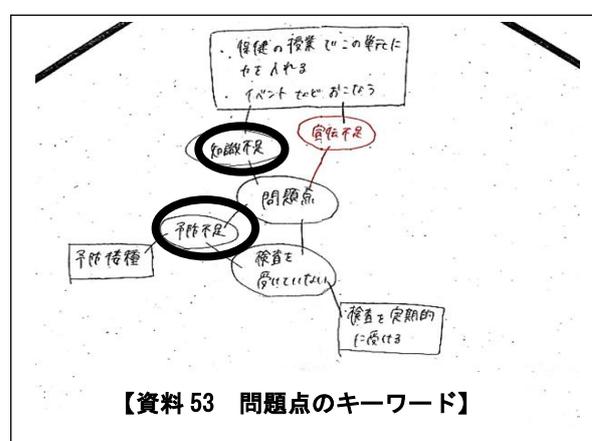
導入

まず、性感染症が広がる原因を想起することができるよう、日本医師会の性感染症の発生動向グラフ【資料 51】と梅毒の発生動向のグラフ【資料 52】を提示し、「今も、性感染症に罹患する人が一定数



存在する。また、梅毒の罹患者のように今後急増する可能性がある。性感染症が広がっていくのは何故だろうか」と発問した。生徒からは、「不特定多数と性的関係を持つからではないか」、「性感染症ということで恥ずかしさがあり、病院に行きにくいことが、早期治療を難しくしているのではないか」、「単純に知識不足なのではないか」などの発言があった。

次に、「新規 HIV 感染者の 3 割がエイズを発症して感染が判明する『いきなりエイズ』が発症した場合の問題点はどんなことか」という問いを提示し、イメージマップにその問題点について書き出す活動を仕組んだ。生徒のイメージマップには、「予防不足」、



「知識不足」などの記述が見られた【資料 53】。

そして、イメージマップに記述されたキーワードをもとに、解決策を考える活動を仕組んだ。その結果、生徒は、「正しい知識を身に付ける」、「病院に行ったりする」などと記述していた【資料 54】。

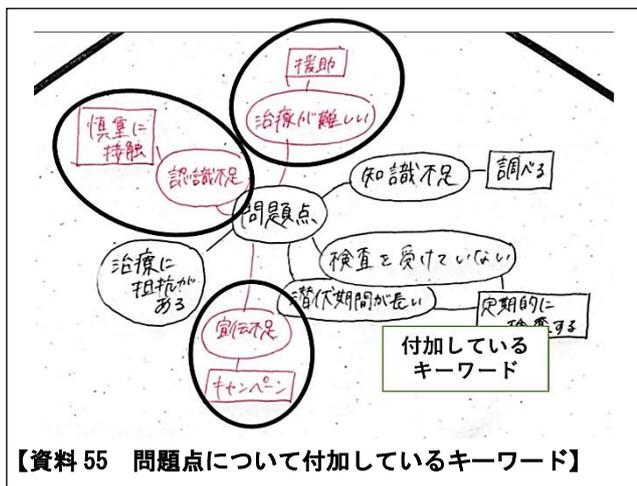
正しい知識を身に付けるのことと頭において行動することや、
心あたりのない場合は「恥をかかぬように」(=相談して)「病院に行ったりする」。

【資料 54 問題点への対策の記述】

展開

まず、イメージマップのキーワードや導入で考えた対策について、グループで意見交換する場を設定した。生徒は、他者のキーワードや考えを比較したり評価したりしながら、「認識不足」、「治療が難しい」、「宣伝不足」など、新たに気付いたことを付加していた【資料 55】。

次に、個人的と社会的な感染予防策を付加することができるよう、繰り返し感染しないためにパートナーと一緒に受診することや性感染症に関する情報提供などをスライドで示した。生徒は、「検査を受ける」や「検査を受けやすい体制を整える」などを付加していた【資料 56】。



検査を受ける。
しっかり意識をもつ。
もっと宣伝する。
検査を受けやすい体制をととのえる。

【資料 56 対策について付加している記述】

終末

まず、本時を振り返らせるために、厚生労働省や国立感染症研究所のホームページ【資料 57】、福岡県内のエイズ治療拠点病院のスライドや福岡県内のエイズ・性感染症の検査実施保健所一覧【資料 58】

【資料 57 性感染症の情報】
厚生労働省ホームページより

【資料 58 福岡県内の保健所】
福岡県ホームページより

保健所	相談電話 (エイズホットライン) (エイズダイヤル)	定期検査 (時間を過ぎて検査しています)			
		曜日	時間	検査項目	
北九州市保健所	093-822-8727 093-822-8711 (検査予約電話)	月・月	17:00~19:00	※予約 ※匿名 ※無料	
		火・火	8:00~11:00	※予約 ※匿名 ※無料	
小倉北区役所	093-862-3440	火	9:00~11:00	※予約 ○ ○ ○	
八幡西区役所	093-842-1444	水	9:00~11:00	※予約 ○ ○ ○	

を提示した。生徒は、実際の情報や身近な地域にある保健所やエイズ治療拠点病院を知ること、性感染症の社会的な対策を身近に捉えたような様子であった。

次に、自分のイメージマップや考えた内容を見直し、実生活に生かす方法を考える活動を仕組んだ。「感染した場合は、国が出している情報を活用したり、保健所を利用したりする」や「性感染症についての教育を受ける場を増やす」など社会的視点を踏まえた記述が見られた【資料 59】【資料 60】。

正しい知識を身に付け、早期発見、早期治療をし人に感染させない
 ように意識をし、もし自分が感染していた場合国が出している小情報を
 活用したり、保健所を利用したりしたいです。

【資料 59 実生活に生かす方法の記述-①】

性行為をしない、するしたら、コンドームをつけるなどして、性感染症になるのを防ぐ
 定期的に病院に行き治療を受けることも防ぐことができる。
 性感染症についての教育を受ける場を増やす。

【資料 60 実生活に生かす方法の記述-②】

(7) 学習のまとめ

ねらい	「健康の保持増進と疾病の予防」に関する課題とその解決策を、個人的な視点と社会的な視点を踏まえて考えることができるようにする。
-----	--

学習の展開

	学習活動	イメージマップの活用
導入	<ul style="list-style-type: none"> ○健康課題を解決するためには、個人的な視点と社会的な視点の両方の視点から考える必要性を確認する。 ○「健康の保持増進と疾病の予防」についてスピーチのテーマと項目を考え、記述する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○スピーチのテーマと話す内容について考えをつくることができるよう、イメージマップのキーワードを確認する。
展開	<ul style="list-style-type: none"> ○テーマと項目について、グループ内で発表を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ○テーマと項目について自分の考えたスピーチや項目に付加することができるよう発表を聞き、イメージマップの記述内容をもとに、比較したり評価したりする。
終末	<ul style="list-style-type: none"> ○「健康で生きていくために、『自分自身』そして『社会』は、今後どのような行動や対策を取る必要があるか」について考える。 ○授業の振り返りを行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ○実生活とつなげて考えることができるよう、イメージマップの記述内容をもとに考える。

導入

まず、個人的な視点と社会的な視点の両方の視点から考えることを確認するために、「飲酒、喫煙、薬物乱用の問題は個人が気を付けて過ごせばよいか」と発問した。生徒からは、「社会的な対策や支援が必要である」という発言があった。さらに、「感染症は『感染症予防の啓発を行う』など、社会的な対策ができていれば感染拡大は抑えられるか」と発問した。生徒からは、「個人の感染対策が必要である」という発言があり、健康課題を解決する際は、個人的な視点と社会的な視点を踏まえて考えることを理解させた。

次に、「福岡県における健康づくりに貢献し、その功績が特に顕著と認められる学校として北筑高校が選ばれました。そこで、北筑高校から1名『健康の保持増進と疾病の予防』についてスピーチをして欲しいとの依頼があり、あなたが選ばれました。福岡県が『健康の保持増進と疾病の予防』に関して一歩前進できるようなスピーチのテーマと項目と話の内容を考えてください」という代表スピーチを行うと仮定した問いを提示し、今までイメージマップに記述してきたキーワードを活用させ、学習プリント【資料 61】に「自分が決めたテーマ」、「テーマに関する項目」、「話す内容」を記述させる活動を仕組んだ。また、学習プリントについては、項目の下に内容を記述することなど説明した。生徒は、今までのイメージマップや学習プリントを見返し、テーマや項目を学習プリントに記述していた。学習プリントには、テーマに関して「健康な社会の確立に向けて」【資料 62】や「すべての人の健康をたばこから守るためには」【資料 63】などの記述が見られた。

学習のまとめ

1年()組()番 名前()

福岡県における健康づくりに貢献し、その功績が特に顕著と認められる学校として北筑高校が選ばれました。そこで、北筑高校から1名『健康の保持増進と疾病の予防』についてスピーチをして欲しいとの依頼があり、あなたが選ばれました。福岡県が『健康の保持増進と疾病の予防』に関して一歩前進できるようなスピーチのテーマと項目と話の内容を考えてください。

※「→」は項目に関する話の内容を、「●」の部分には短の人の意見を記入してください。

○テーマ

● (テーマを記述する)

○項目と内容

● (項目を記述する)

→ (内容を記述する)

● (他者からの意見を記述する)

→

→

【資料 61 7時間目で使用した学習プリント】

(テーマ) 健康な社会の確立に向けて

(項目) ・ 現在の飲酒や喫煙量の状況

(内容) → 多くの人が飲酒や喫煙することが可能であり、未成年者もいる可能性がある

(項目) ・ 日々の健康の維持や未成年者の飲酒、喫煙の防止

(内容) → 生活習慣病を予防するために飲酒や喫煙を止め、適度な運動をし、未成年者には啓発する

【資料 62 テーマ、項目と内容の記述-①】

(テーマ) すべての人の健康をたばこから守るためには

(項目) ・ たばこを吸う場所吸わない場所の区別をしっかりとつける。

(内容) → 受動喫煙により、たばこを吸っていない人も害をうけてしまうから。

(項目) ・ たばこ1箱の値段を上げる

(内容) → 高く買えないからたばこをやめる。などといふやめるま、おけをつく、2ついいから。

【資料 63 テーマ、項目と内容の記述-②】

展開

項目と内容について、他者の考えを付加することができるよう、グループで発表する場を設定した【資料 64】。生徒は、導入で考えたテーマ、項目や内容について説明していた。また、説明を聞いた生徒も、説明者の項目や内容に関して意見や感想を伝えている姿が見られた。生徒は、「お酒の悪い面も知る」【資料 65】や「個人的要因と社会的要因について書くとよい」【資料 66】など、意見交流の中で気付いたことや考えたことを付加していた。



【資料 64 グループでの発表の様子】

● 祝の事はどのときに飲む風潮があるから (付加している記述)

・ 国が行う取り組み

→ 毎日買えばいくらか高い値段にする

● CMなどで体に悪い事を知らせる (付加している記述)

・ 個人で出来ること

→ 1=アルコールを飲む。一日の本数を決め、飲みすぎを防ぐ。絶対車に乗らない。

● お酒の悪い面を知る (付加している記述)

【資料 65 内容に付加している記述-①】

・ がんになる確率が高くなる。

→ たばこに含まれる「タール」ががんの発生源に大きな影響を与えている。

● 他の有害物質についても書くと良い (付加している記述)

・ 未成年の喫煙禁止の理由

→ 大人よりも悪影響を与える物質が体全体に広がってしまうから。

● 個人的要因と社会的要因についても書くと良い (付加している記述)

【資料 66 内容に付加している記述-①】

終末

まず「健康で生きていくために、『自分自身』そして『社会』は、今後どのような行動や対策を取る必要があるか考えてみよう」という問いに対し、イメージマップに書かれているキーワードや学習プリントに書かれている内容を振り返り、記述させた。生徒は、「個人じゃなくて社会全体として考えるといいと思う」、「国と連携をとる」、「啓発運動や宣伝」、「自分の生活を見直し、消毒など当たり前のことをする必要もある」など、個人的な視点と社会的な視点の両面から自分の考えを記述していた【資料 67】【資料 68】。

喫煙に関しては受動喫煙など周りの人に迷惑しかかっている。自分が吸うから悪いのではなく、個人ではなくて社会全体として考えるといいと思う。受動喫煙により、パートナーや自分の子どもが苦しむかもしれないということも考えると喫煙者の数も減ってきていると思う。また、社会的にも法律でマスメディアを制限したり、国と連携をとったりすればいいと思う。

【資料 67 実生活に生かす方法の記述】

間違った知識を捨て、正しい知識を得る。そのためにたくさんの人と情報を共有し、広め合うことが必要だと思った。また、啓発運動や宣伝を行って例えば薬物の危険性、感染症対策についてより多くの人に理解してもらい、自分の生活を見直し、消毒など当たり前なことを当たり前にする必要もある。

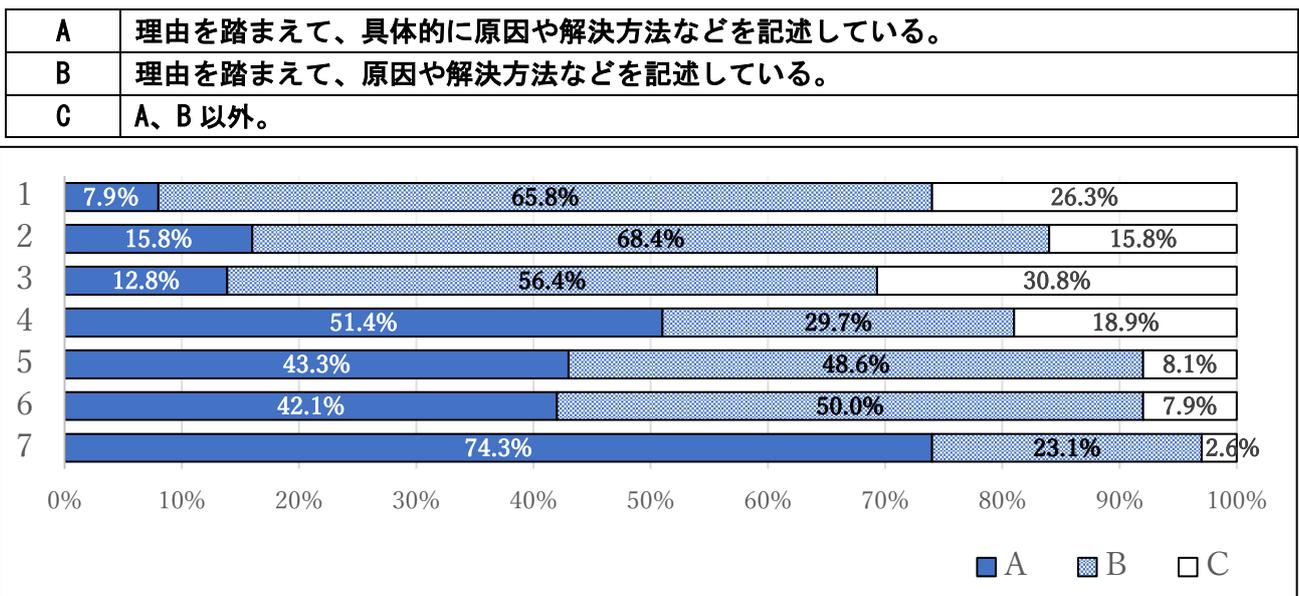
【資料 68 実生活に生かす方法の記述】

次に、より個人的な視点と社会的な視点を関連させて考えることができるようにするために、ヘルスプロモーションのスライドを提示した。健康の保持増進を生涯にわたって実践するために、個人的な視点と社会的な視点を踏まえて考えることが大切であることを改めて感じたようであった。

2 結果と考察

(1) 検証 1 「既存の知識を使って健康課題を見出し、それに対して原因や解決方法などについて自分なりの考えをもつことができているか」について

検証 1 については、毎時間の導入における学習プリントやイメージマップの記述をもとに、A（理由を踏まえて、具体的に原因や解決方法などを記述している）B（理由を踏まえて、原因や解決方法などを記述している）C（A、B 以外）の 3 段階で判定を行った。1 時間目から 7 時間目までの結果を【図 5】に示す。



【図5 検証 1 の 1 時間目から 7 時間目までの結果】

検証1の結果は、授業の回数が進みAの割合が増加していた。また、AとBの割合も同様に増加していた。特に、7時間目の「学習のまとめ」では、Aが74.3%、Bを含めると97.4%となり、高い割合となった。このことから、「既存の知識を使って健康課題を見出し、それに対して原因や対策、解決策について自分なりの考えをもつことができる生徒」に迫ることができたと考ええる。

これは、授業の導入段階において、資料の提示や発問を行った後に、授業のねらいと関連させた問いに対し考える活動を仕組んだことや、その活動において、イメージマップに知識や考えを記述させ、記述したことをもとに考えさせたことが有効に働いたからだと考ええる。

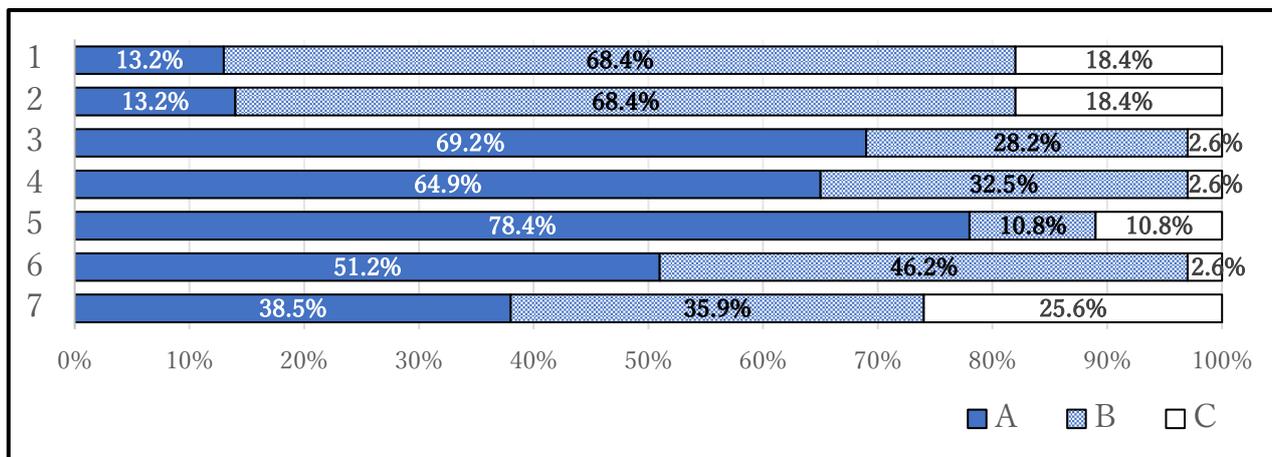
特に、3時間目から4時間目にかけて、Aの割合が38.6%増加した。これは、4時間目の現代の感染症の学習内容が感染症の発生や流行の内容であり、現在問題となっている新型コロナウイルス感染症がもたらした世の中の変容を想起させたことが、社会的な視点を踏まえた記述を増加させた一因になったと考えられる。実際に、4時間目だけでなく、5時間目の感染の予防、6時間目の性感染症・エイズとその予防も同様に、新型コロナウイルス感染症予防の観点を生かしている具体的な記述内容が見られた。さらに、7時間目はA、B以上が97.4%という高い値が見られた。これは、学習のまとめとして設定したため、生徒が既存の知識と6時間目までの授業で習得した知識や考えなどを生かすことができたからであると考ええる。

しかし、1時間目から4時間目にかけて、Cの生徒が一定数いたことと、最後の7時間目の「学習のまとめ」において、Cの生徒が2.6%いたことは課題である。これは、原因や対策などを考える際、その理由を健康課題として認識させることができなかつたからと考える。改善策として、問いを工夫し、生徒が健康課題を見出しやすくすることや、健康課題につなげることができる資料の提示などが必要であると考ええる。

(2) 検証2「自分なりの考えを他者の考えや資料などと比較したり評価したりして、新たな知識や考えを付加することができているか」について

検証2については、毎時間の展開における学習プリントやイメージマップの記述を分析し、A（新たな知識や他者の考えなど、複数の視点で付加し記述している）B（新たな知識や他者の考えなど、付加し記述している）C（A、B以外）の3段階で判定を行った。1時間目から7時間目までの結果を【図6】に示す。

A	新たな知識や他者の考えなど、複数の視点で付加し記述している。
B	新たな知識や他者の考えなど、付加し記述している。
C	A、B以外。



【図6 検証2の1時間目から7時間目までの結果】

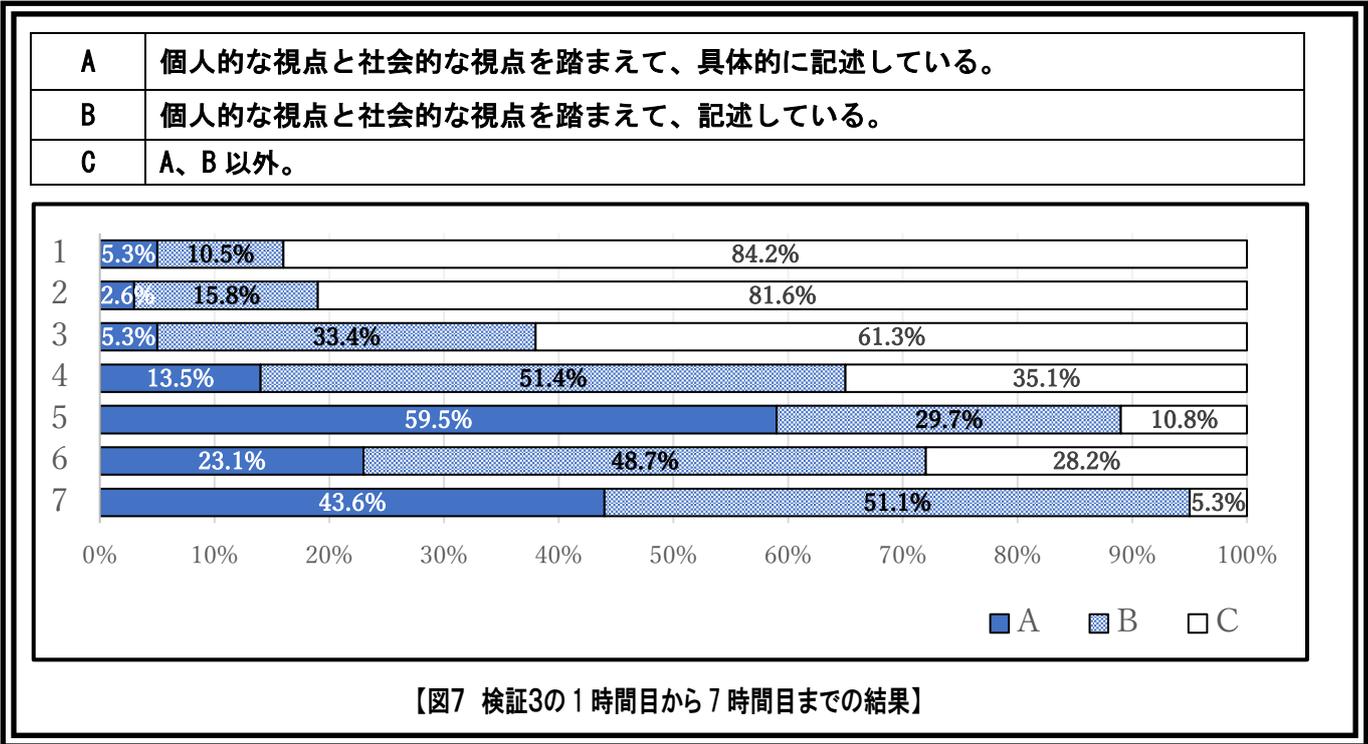
検証2の結果は、1時間目から7時間目のすべての授業でB以上が70%以上で推移していた。このことから、「自分なりの考えを他者の考えや資料などと比較したり評価したりして、新たな知識や考えを付加することができる生徒」に概ね迫ることができたと考える。

これは、授業の展開段階において、イメージマップの記述をもとに、他者の知識や考えと比較したり評価したりして、新たに気付いた視点を付加するために、グループで意見交換する場を設定したことや、写真や動画、リーフレットなどの資料を用いて教師が説明したことが有効に働いたからだと考える。

しかし、1時間目と2時間目にかけてAを満たす記述が少なかった。1時間目の喫煙と健康、2時間目の飲酒と健康のイメージマップのキーワードとして、「喫煙しない」、「飲酒禁止」、「家族や親戚に注意を促す」などの個人的な視点の記述が多く、社会的な視点の記述があまり見られなかった。これは、資料の提示や教師の言葉かけにおいて、生徒に社会的な視点を上手く与えることができなかったことが原因であると考えられる。さらに、視点が広がらなかったことで、同じようなキーワードが多くなり、複数の視点が付加できている生徒が少なくなったと考える。今後は、生徒が新しい視点を捉えることのできる資料の提示について改善していく必要があると考える。また、7時間目の学習のまとめでは、6時間目までのイメージマップを使ったため、付加できる内容が少なくなったことが原因となりAとBの割合が少なくなったと考える。

(3) 検証3「個人的な視点と社会的な視点を踏まえ、実生活で生かす方法を考えているか」について

検証3については、毎時間の終末における学習プリントの記述を分析し、A（個人的な視点と社会的な視点を踏まえて、具体的に記述している）B（個人的な視点と社会的な視点を踏まえて、記述している）C（A、B以外）の3段階で判定を行った。1時間目から7時間目までの結果を【図7】に示す。



検証3の結果は、授業の回数が進み、AとBの割合が増加している。実際に、生徒aの1時間目と7時間目の終末での記述【資料69】や、生徒bの2時間目と7時間目の終末での記述【資料70】を比較すると、7時間目の記述のほうが、個人的な視点と社会的な視点を踏まえて具体的に記述していることが窺える。このように授業を重ねるごとに、記述の変容が多くの生徒で見られるようになった。このこ

とから、「個人的な視点と社会的な視点を踏まえ、実生活で生かす方法を考えることができる生徒」に迫ることができたと考える。

これは、授業の終末において、付加したイメージマップ、原因や対策などを記述した学習プリントをもとに、生徒自身の生活に置き換えて考える活動を仕組んだことが有効に働いたからだとも考える。さらに、7時間目においては、A、B以上が94.7%であった。これは、1時間目から6時間目までの、イメージマップや学習プリントをもとに、自分でスピーチのテーマや項目などを考えたことで、個人的な視点と社会的な視点を総合的に捉えることができたからだとも考える。

しかし、1時間目、2時間目ではC判定が多く見られた。その理由として、実生活に置き換えて記述できていたものの、「煙草を吸わないようにする」や「飲酒をしないようにする」など、個人的な視点のみでの内容が大半であり、社会的な視点に関する内容はあまり見られなかったことが挙げられる。終末で、具体的な法的取組や対策など社会的な視点を踏まえることができるように、資料を提示するタイミングや教師の説明などを工夫する必要があったとも考える。

<p>禁煙・分煙の場を増やすことで受動喫煙者をなくす。</p> <p>小さい頃から正しい知識を得ることで新たな喫煙者を増やさない。</p>	<p>1時間目の記述</p>
<p><u>喫煙に関しては受動喫煙など周りの人に迷惑しかかっている。自分が吸うから正しいのではなく、個人だけでなく社会全体として考えるべきと思う。受動喫煙により、パートナーや自分の子どもが苦しむかもしれないということも考えると喫煙者の数も減らさなくてはならないと思う。また、社会的にも法律でマスメディアを制限したり、国と連携をとったりすればいいと思う。</u></p>	<p>7時間目の記述</p>
<p>【資料 69 生徒 a の 1 時間目と 7 時間目の記述】</p>	

<p>大人になって、お酒を飲むようになったとしても、弱めのものを飲んで、特別な日以外は飲まないようにする。</p>	<p>2時間目の記述</p>
<p><u>自分自身では、飲酒への健康影響を常に意識したり、周りの人にも健康に生きていけるよう、よびかけたりする。社会的には、国や地方自治体が発信している情報を理解することやマスメディアで危険性をよびかけていくことが大事だ</u>と思った。</p>	<p>7時間目の記述</p>
<p>【資料 70 生徒 b の 2 時間目と 7 時間目の記述】</p>	

VII 研究のまとめ

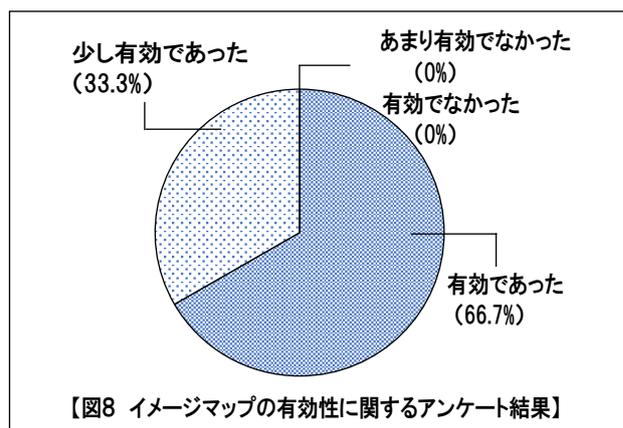
1 アンケートについて

(1) イメージマップの有効性に関するアンケート

【図8】は、「イメージマップは、『自分の考えをつくる』、『考えを他者と比較したり評価したりして広げる』、『考えを実生活に結び付ける』ことに有効であったか」を、「『有効であった』、『少し有効であった』、『あまり有効ではなかった』、『有効ではなかった』」の4件法で生徒に聞いた結果である。66.7%が「有効であった」、33.3%が「少し有効であった」と回答した。

また、その理由を見ると、「イメージマップを書いてからだ文が作りやすかった。単語はうかぶけど、文章にするのが難しい場合に有効だったと感じる」【資料71】、「友達のイメージマップは自分では気づかないような視点から考えたことがたくさん書いてあって、とても良い刺激になった」【資料72】などの記述があり、自分の考えをイメージマップに記述し、可視化することは、生徒の表現力等を育成する上で有効に働いたと考える。

さらに、イメージマップを使って自分の考えを書き出したり、イメージマップの記述内容を仲間と比較したり評価したりしていた生徒の様子が見られたことから、イメージマップは自分の考えをつくったり、他者と比較したり評価したり、実生活に結び付ける際に有効であったと考える。



【図8 イメージマップの有効性に関するアンケート結果】

イメージマップを書いてからだ文が作りやすかった。
単語はうかぶけど文章にするのが難しい場合に有効だったと感じる。

【資料71 イメージマップの有効性に関するアンケートの記述-①】

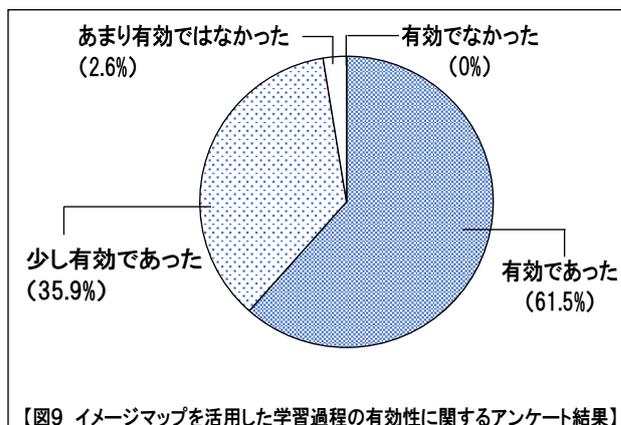
友達のイメージマップは自分では気づかないような視点から
考えたことがたくさん書いてあって、とてもいい刺激になった。

【資料72 イメージマップの有効性に関するアンケートの記述-②】

(2) イメージマップを活用した学習過程の有効性に関するアンケート

【図9】は、「イメージマップを使いながら、考えをつくり、新たな知識や考えなどの視点を付け加え、実生活に生かす方法を考えるという段階を踏んだ学習過程は、自分の健康について考えることに有効であったか」を、「『有効であった』、『少し有効であった』、『あまり有効ではなかった』、『有効ではなかった』」の4件法で生徒に聞いた結果である。61.5%が「有効であった」、35.9%が「少し有効であった」、2.6%が「あまり有効ではなかった」と回答した。

また、その理由の記述内容を見ると、「1つ1つの問いに、しっかり考えてできるから考えやすいし、自分の意見や友達の意見もまとめやすい」【資料73】、「友達の意見を聞くことによって、自分の意見を深めたり、改めたりすることができたから」【資料74】、「自分の将来に結び付けることで、より健康の大切さや身近さを改めて実感することができました」

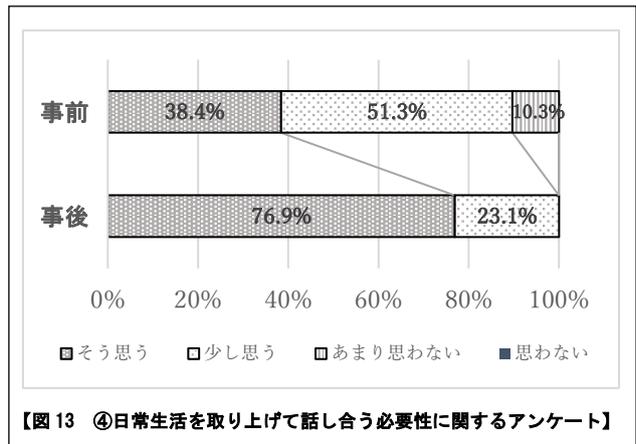
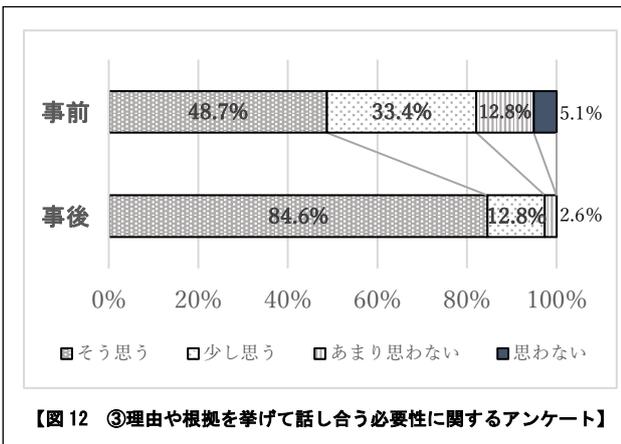


【図9 イメージマップを活用した学習過程の有効性に関するアンケート結果】

イ 理由や根拠を挙げて話し合う必要性和日常生活を取り上げて話し合う必要性について

【図 12】は、理由や根拠を挙げて話し合う必要性、【図 13】は、日常生活を取り上げて話し合う必要性を『『そう思う』、『少し思う』、『あまり思わない』、『思わない』』の4件法で、検証授業の事前事後で生徒に聞いた結果である。

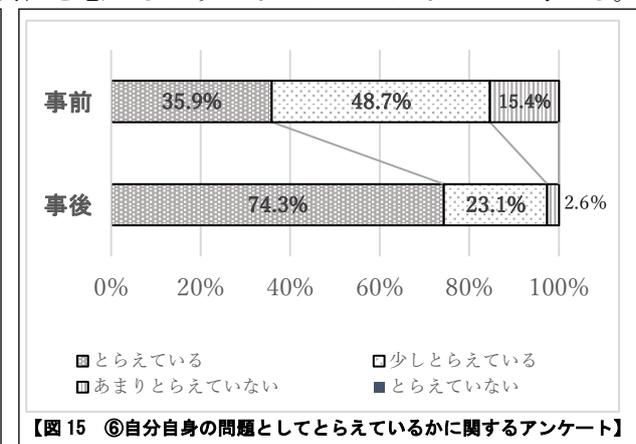
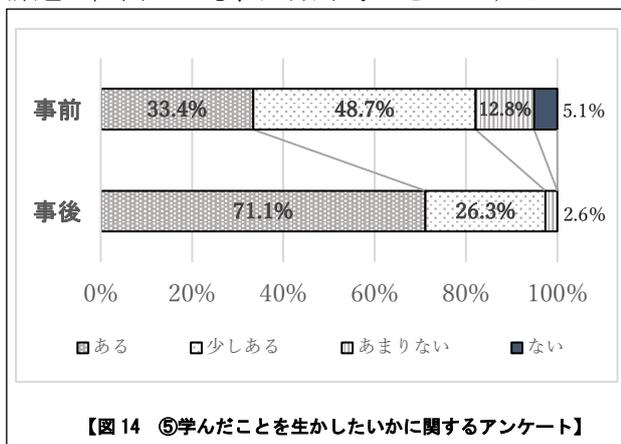
アンケートでは、③「保健の授業で学習したことをまとめたり、友達に発表したりする際に、理由や根拠を挙げて説明することは必要だと思いますか」は「そう思う」が、事前は48.7%、事後は84.6%であり、35.9%増加していた。④「保健の授業で自分たちの日常生活の経験を取り上げて話し合ったりすることは必要だと思いますか」は「そう思う」が、事前は38.4%、事後は76.9%であり、38.5%増加していた。これは、7回の検証授業を通して、自分の既存の知識が新たな知識と結び付いたり、自分とは異なる考えに気付いたりしたことで、健康に関する自分なりの考えを、様々な視点で広げることの必要性を感じるようになったのではないかと考える。



ウ 学んだことを生かしたいと思うかと学習内容を自分自身の問題としてとらえているかについて

【図 14】は、学んだことを生かしたいと思うかを『『ある』、『少しある』、『あまりない』、『ない』』の4件法で、【図 15】は、学習内容を自分自身の問題としてとらえているかを『『とらえている』、『少しとらえている』、『あまりとらえていない』、『とらえていない』』の4件法で、検証授業の事前事後で生徒に聞いた結果である。

アンケートでは、⑤「保健の授業で学んだことを自分の生活に『生かしたい』と思ったことはありますか」は「そう思う」が、事前は33.4%、事後では71.1%であり、37.7%増加していた。⑥「保健の授業の学習内容を自分自身の問題としてとらえていますか」は「そう思う」が、事前では35.9%事後は74.3%であり、38.4%増加していた。これは、7回の検証授業を通して、知識や考えを活用し、現在や将来に生かせるように、導入、展開で考えた内容とは違う場面に置き換えて考えることで、健康課題に直面しても、知識や考えを生かすことの必要性を感じるようになったのではないかと考える。



2 成果について

イメージマップを活用した学習過程

導入、展開、終末の各段階のねらいに応じてイメージマップを活用した学習過程は、健康について深く考える上で有効であった。また、イメージマップは、知識や考えを書き出して可視化し、持っている知識や考えたことを確かめたり、付加したり、関連付けたりすることで思考を促す際に有効であった。さらに、イメージマップを繰り返し使うことで、生徒はキーワードを書き出したり、キーワードを比較したり評価したりすることに慣れていき効果が高まった。

3 課題について

(1) 問い

より生徒の思考を促していくために、生徒が健康課題を自分の事として捉えられるような問いや、健康課題の解決方法が1つではないオープンエンドな問いなどを模索していく必要があると考える。

(2) イメージマップの活用の仕方

イメージマップの活用の仕方については、さらに改善の余地があると考え。例えば、1単位時間において、学習を振り返る際にイメージマップに書かれたキーワードを関連付けたり、学習のまとめにおいて、項目ごとのキーワードを関連付けたりする活動を仕組むことで、より効果が高まると考える。

(3) 他の思考ツールの実践

イメージマップに関して成果を得ることができたが、思考ツールは20種類以上あり様々な目的がある。他の思考ツールを使用したり、思考ツールを組み合わせたり、生徒が思考ツールを選択したりして科目保健の授業を実践し、その有効性を明らかにしていく必要があると考える。

<引用文献>

- 文部科学省(2019)「高等学校学習指導要領(平成30年告示)解説 保健体育編 体育編」東山書房
- 森良一(2019)「健康そのものが問い直される時代の保健科教育の行方」『体育科教育』第67巻第8号 大修館書店
- 佐藤豊・菊幸一・森良一 他(2019)「平成30年度 学習指導要領改訂のポイント」明治図書出版
- 田村学・黒上晴夫(2014)「こうすれば考える力がつく! 中学校思考ツール」小学館
- 国立政策研究所(2013)「社会の変化に対応する資質や能力を育成する教育課程編成の基本原理」
- 田村学・黒上晴夫(2017)「深い学びで生かす思考ツール」小学館

<参考文献>

- 文部科学省(2018)「小学校学習指導要領(平成29年告示)解説 体育編」東洋館出版
- 文部科学省(2018)「中学校学習指導要領(平成29年告示)解説 保健体育編」東山書房
- 森良一(2020)「中学校・高等学校保健科教育法(改訂版)」東洋館出版社
- 今村修・植田誠治 他(2020)「保健科教育学の探求 研究の基礎と方法」大修館書店
- 西岡加奈恵・石井英真(2019)「教科の『深い学び』を実現するパフォーマンス評価」日本標準
- 田村学(2018)「深い学びを育てる思考ツールを活用した授業実践」小学館
- 栗田正行(2017)「『発問』する技術」東洋館出版社
- 田村学(2015)「授業を磨く」東洋館出版社
- 下村芳弘(2011)「思考ツールの教科書」東洋経済新報社
- 森昭三・和唐正勝(2005)「新版 保健の授業づくり入門」大修館書店
- 冢田重晴(2003)「改訂 保健科教育」杏林書院
- 近藤真庸(2002)「〈シナリオ〉形式による保健の授業」大修館書店
- 近藤真庸(1997)「保健授業づくり実践論」大修館書店
- 七木田文彦(2019)「保健の学びをデザインする」『体育科教育』第67巻第8号 大修館書店
- 西岡伸紀(2019)「資質・能力の育成を目指すこれからの保健教育」『体育科教育』第67巻第8号 大修館書店
- 片岡千恵(2019)「平成時代の成果と積み残された課題 新しい時代の教育課程に基づく授業実践の工夫」『体育科教育』第67巻第8号 大修館書店
- 今村修(2017)「保健授業で『認識が深まる』とは何か」『体育科教育』第65巻第9号 大修館書店
- 岡崎勝博(2012)「保健授業のよい発問、わるい発問 発問づくりのステップアップ」『体育科教育』第60巻第12号 大修館書店

おわりに

福岡県体育研究所に長期派遣研修員として、1年間研修の機会を与えていただいたことは、自分自身の保健体育科の教員としての姿を振り返るとともに、今後の教員生活にとって貴重な経験を得ることができました。

この1年間を振り返ると、新型コロナウイルス感染症が世界中で猛威を振るい、学校での教育活動や運動・スポーツなどが、今までにない状況に直面した中で、研修が始まりました。今までとは違う新しい生活様式と研究論文の主題、副主題の考案や研究構想の構築に四苦八苦しなごら過ごし、研究に縁遠かった私にとって、何から始めて良いのか分からないという不安の毎日でした。また、会議で指導主事の先生方に助言いただき、何度も研究構想を書いては書き直すということを繰り返す中で、自身の力不足を実感し、これまでの保健体育の授業に対する姿勢や考え方を見直す日々でした。しかし、少しでも学校に還元できるような研究にしたいという思いと、新型コロナウイルス感染症が世界に与えた健康への影響を連日のテレビや新聞での報道で目にしたときに、今まで以上に生徒の健康課題を解決する力を育てる必要性を感じ、科目保健で研究を進めることにしました。1年間の研修を終えて、私の実践は反省ばかりで、まだまだ改善の余地は多くありますが、一つ確信したことがあります。それは、科目保健における思考力等の育成を目指した授業は、生徒が自身の健康について見直し、さらには、将来直面するであろう健康課題を解決することができるようになる力を育てるということです。このことから、生徒が生涯にわたって心身の健康を保持増進するために、科目保健において様々な視点で健康について考える重要性を再認識することができました。

研究が思うように進まずいつも悩んでばかりの日々でしたが、指導主事の先生方には、本当に粘り強く丁寧に指導して頂き、そして励まして頂いたことは、私の大きな力となりました。そして、同じ長期派遣研修員として共に過ごしてきた小・中学校の先生方がいなければ、ここまでたどり着けなかったと思います。研究に行き詰ったときは、相談したり、意見を交わしたりすることで、新たな発見がありました。さらに、話していく中で、小学校、中学校、高等学校と12年間の系統性を考えて指導していく必要性を感じることができ、学校だけでは決して知ることができなかったことを、様々な視点を踏まえ学ぶことができました。2人がいたからこそ、悩みを一人で抱え込むことなく研究を進めることができました。本当に感謝しています。

この1年間、多くの人に支えられながら、教師として一人の人間として成長することができたことを実感しています。今後もさらに研鑽に励み、この長期派遣研修で学んだことをしっかりと生徒や学校に還元していきたいと思ひます。

最後になりましたが、この貴重な研修の機会を与えていただきました、福岡県教育委員会に厚くお礼申し上げます。並びに、本研究を進めるにあたって、御指導御助言いただきました教育庁教育振興部体育スポーツ健康課、高校教育課、福岡県体育研究所の山本所長はじめ、所員の皆様に深く感謝申し上げます。また、検証授業に快く協力いただきました、福岡県立北筑高等学校の青木校長、秋山教頭、保健体育科の先生方、教職員各位及び授業に全力で取り組んでくれた1年1組の生徒に、心よりお礼申し上げます。

今後とも、より一層の御指導、御鞭撻を賜りますよう、心からお願い申し上げます。

令和3年2月19日

長期派遣研修員 大和 忠輔 (福岡県立北筑高等学校)